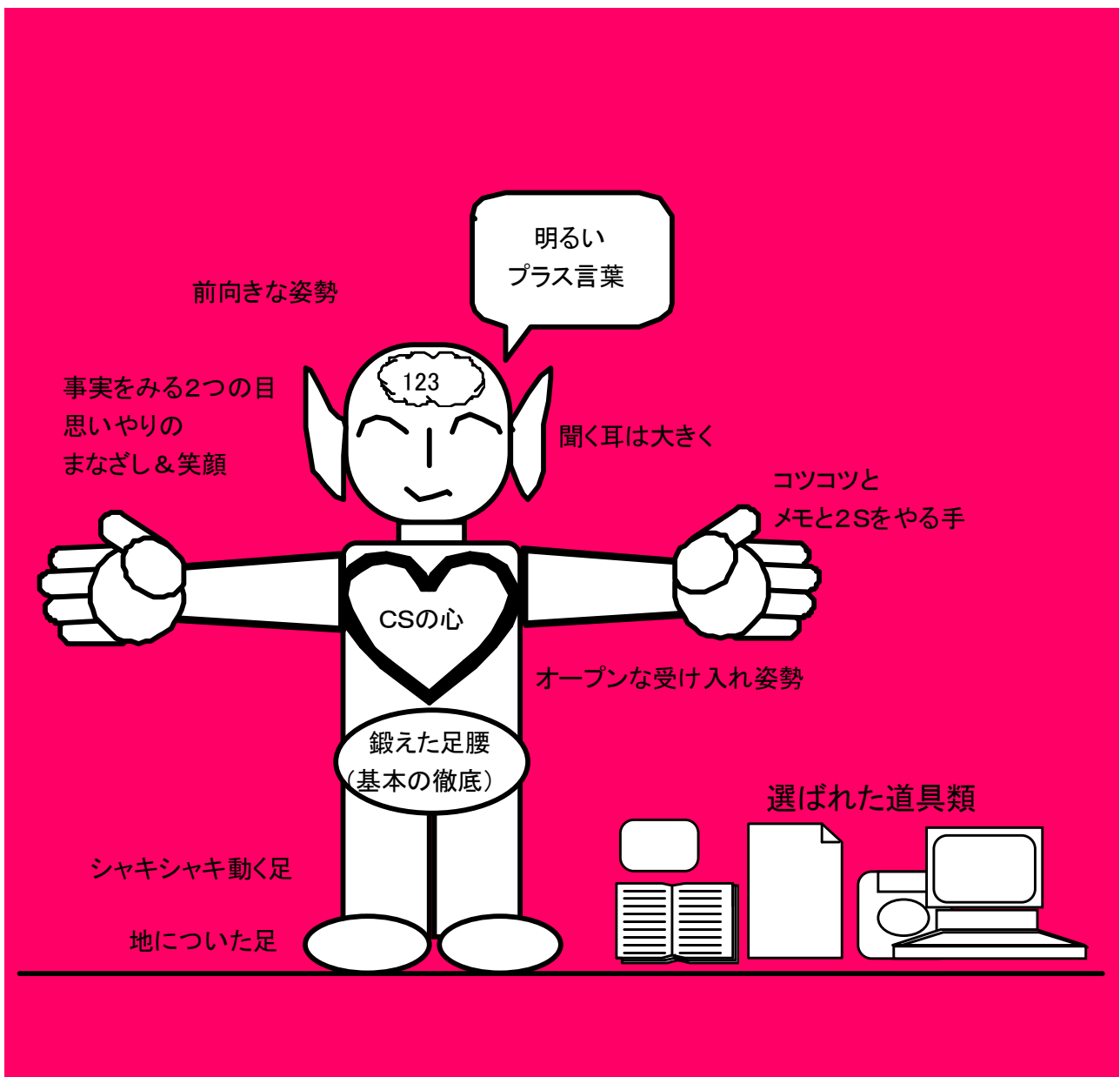
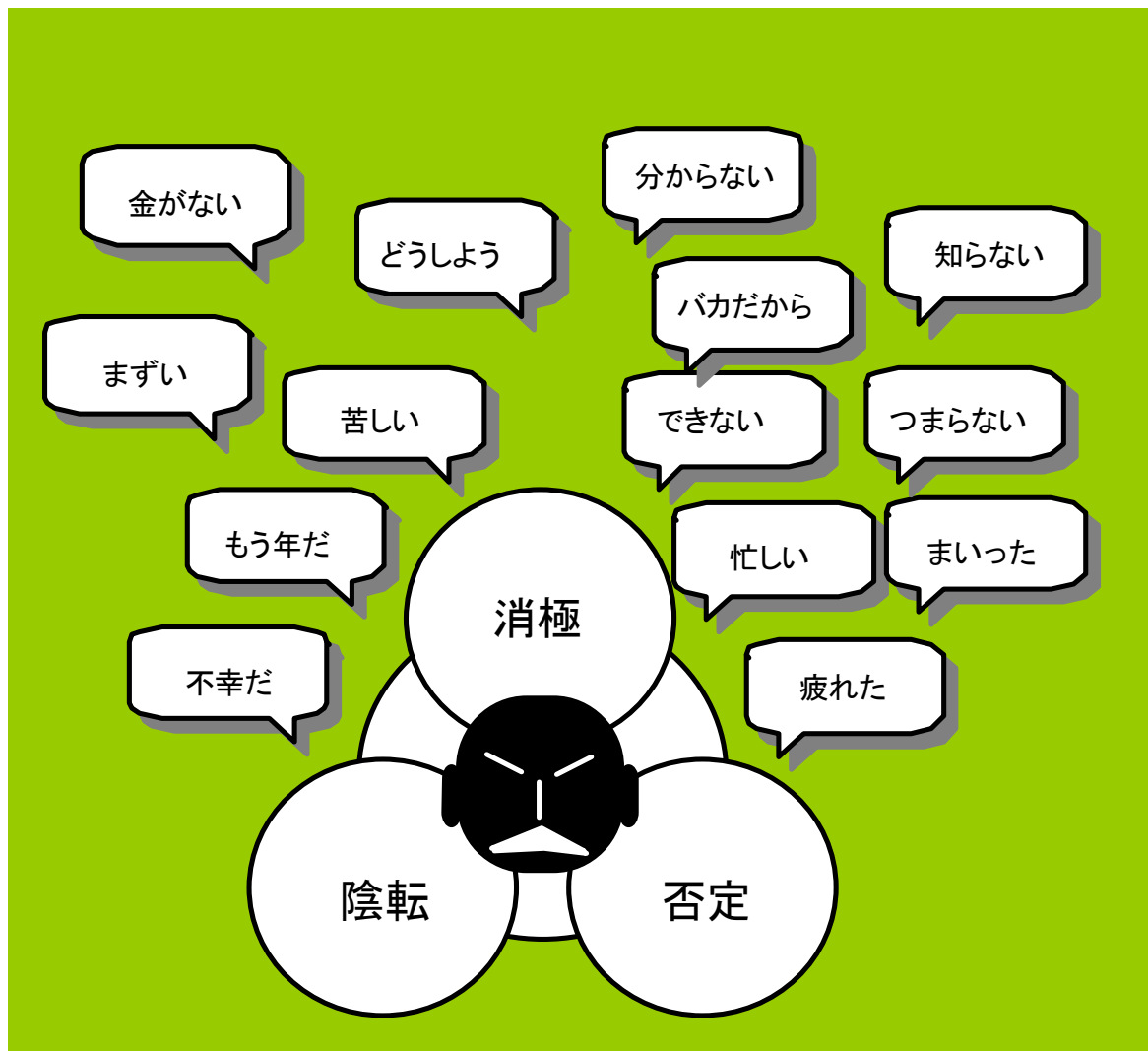


# 「山本英夫の 脳力開発入門」

絵・文：  
山本英夫

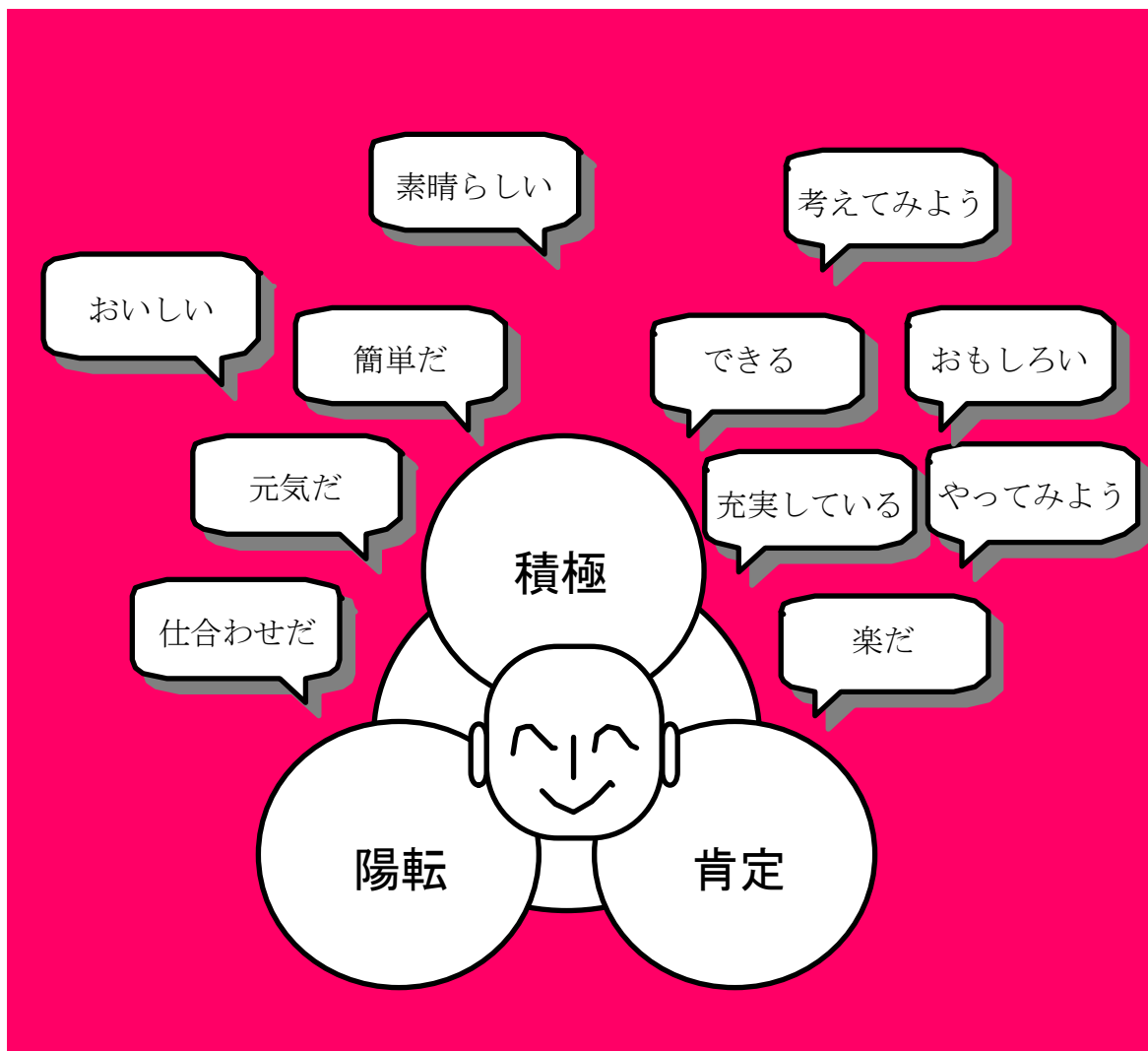


## 0 ■ マイナス人間



「まえがき」に代えて、ポイントと主旨を述べさせていただきます。要は、「マイナスかプラスか、嘆きの人生か愉快で楽しい人生か、どちらを選びますか」、ということです。当然、プラスで、愉快的な人生を選ばれる方が多いと思うのですが、それならば脳力開発は強力な味方になってくれます。

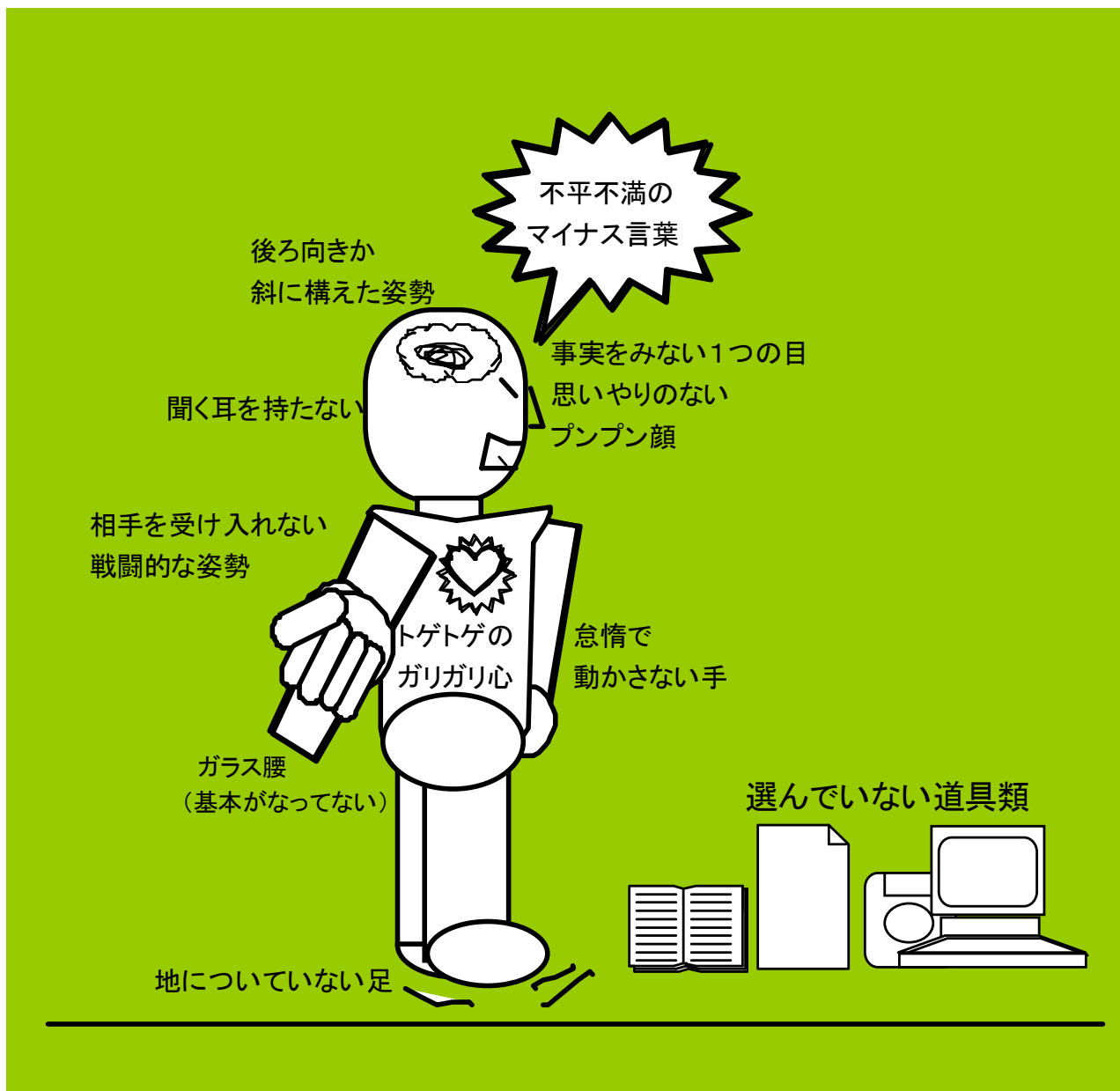
## 0 ■ プラス人間



「頭じゃわかっているんだけど・・・」ということで、なかなか実行できないのが普通のようなのです。ですから、普通の人ほとんどだということです。そこを「頭でわかる」のではなく、全身全霊でわかる、腑に落とす、というレベルまでいけば、体も動くようになります。

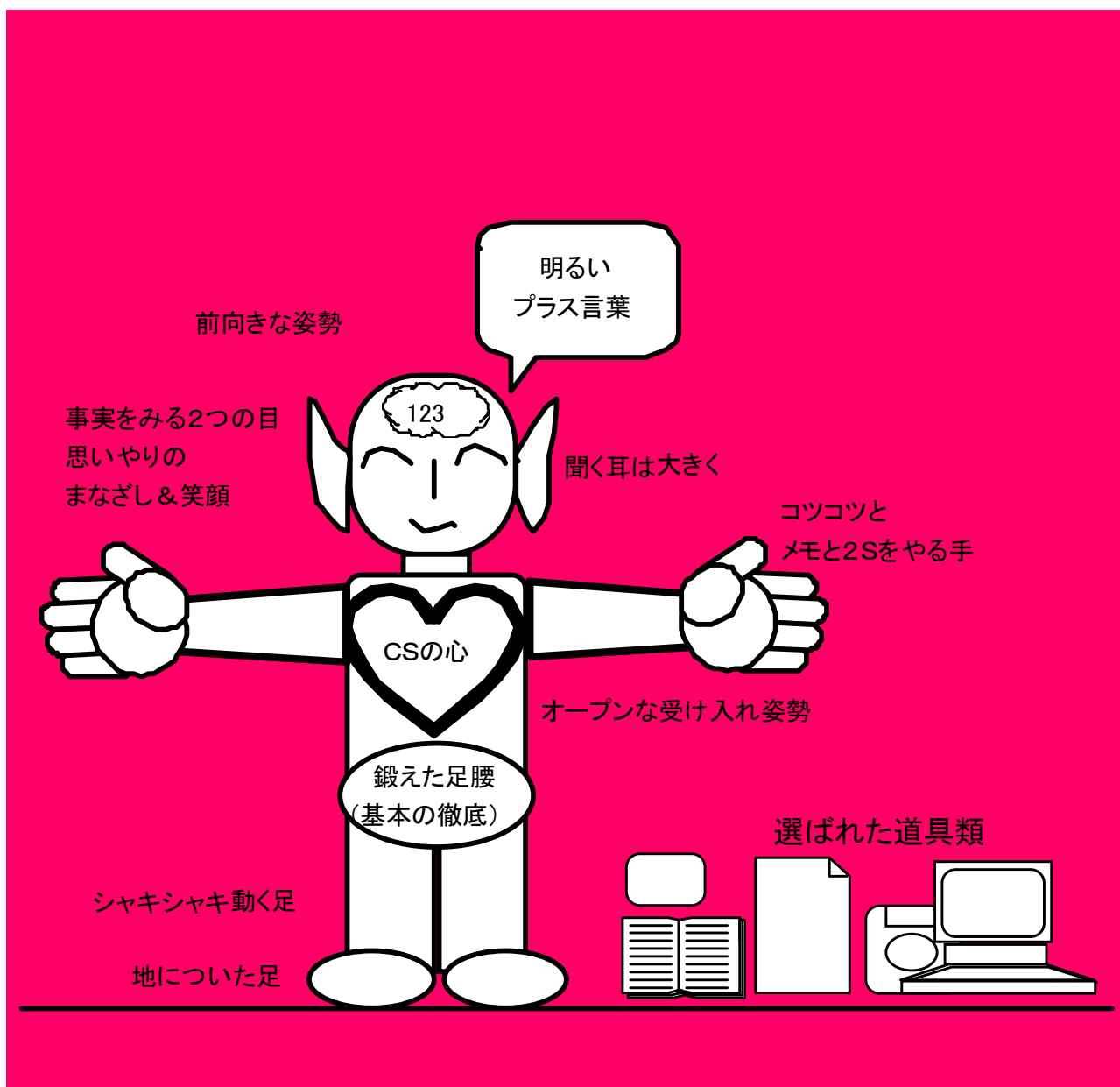
それが、本当にわかったということなのです。

## 0 ■ マイナス人間の特徴



この「脳力開発」は、故城野宏先生が構築されたもので、和製自己実現プログラムとしては最高レベルのものと確信しているものです。「脳力開発プログラム」は、1979年には完成しており、今なおその価値はあせておりません。基本的には、「感性論哲学」とほぼ同じ方向の中で構築されており、「感性論哲学」と並んで高く評価させていただいているものです。

## 0 ■ プラス人間の特徴



「感性論哲学」を主に据えた「感性経営」を強力にサポートするプログラムとして「脳力開発」を位置付けています。それ故、どうしても何らかの形で整理をしておきたかったのが「山本英夫の脳力開発」でした。個人的には「脳力」を「感性」という言葉に置き換えていただいてもほとんど問題がないと思っているものです。

# 0 ■ 脳力開発の全体体系

はじめに

第1章 脳力とは何か

第2章 脳力開発のねらい

第3章 どのようにやるのか

第4章 基礎部と応用部

第5章 基礎部第1面  
精神的姿勢の確立

第6章 基礎部第2面  
思考方法の整備

第7章 基礎部第3面  
実際知識の拡大

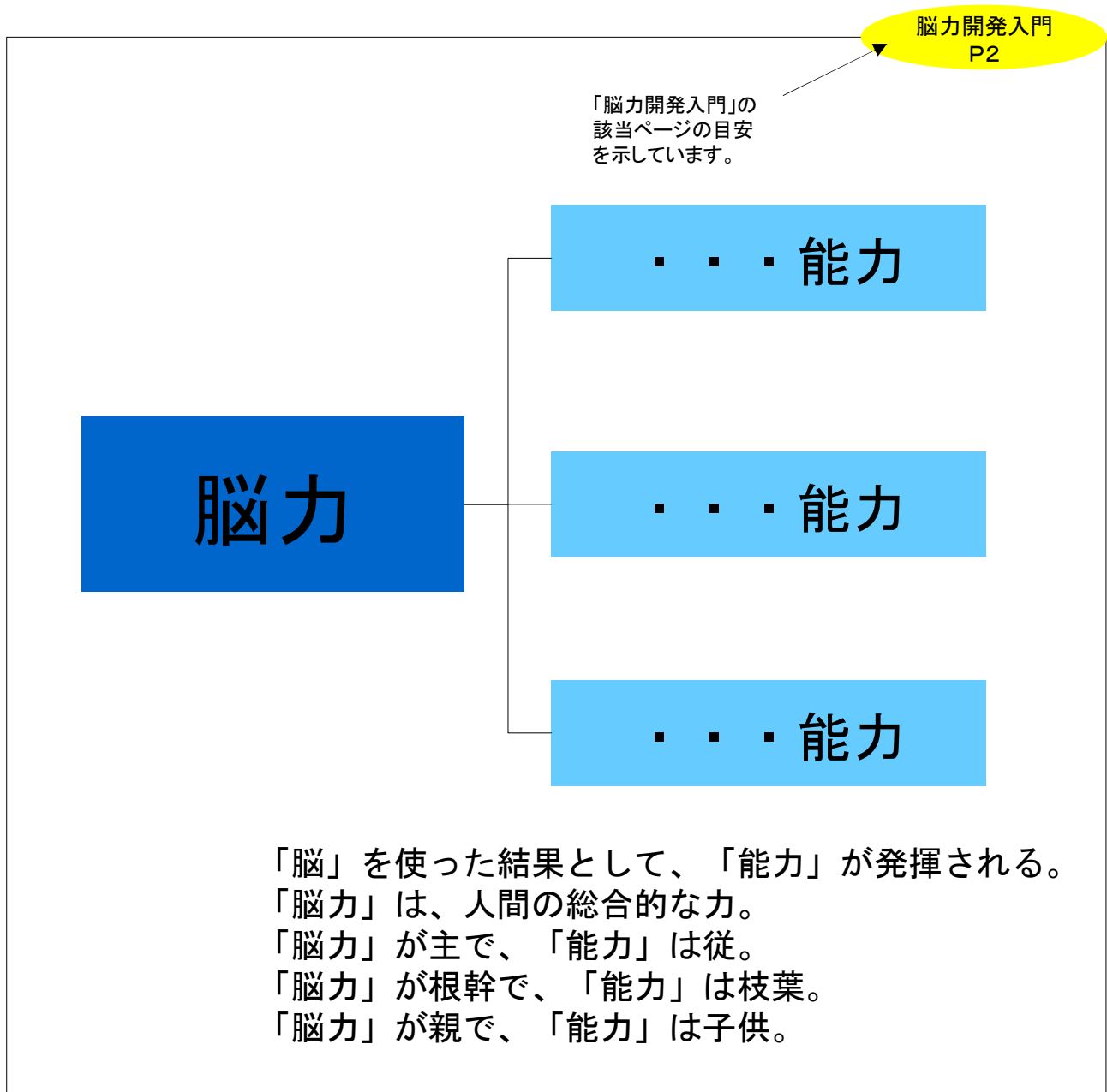
第8章 補足

付録

これは「脳力開発入門・基礎編」の目次です。これからご案内する内容についても、すべて「脳力開発入門・基礎編」の内容に基づいて構成されていますので、興味・関心のある方はぜひ、当社にて「脳力開発入門・基礎編」(2000円税別)をお求めいただければと思います。本当に「使える道具」として配慮されたものです。

<http://www.edics.co.jp>

# 1-1 ■ 根幹が脳力、枝葉が能力



今では「脳力」という言葉はごく一般的になってしまいましたが、当初は「能力」の間違いではないかとか、紛らわしかったために、強調して「能力ではなく、脳力」なのだと言ったものでした。

最初に「脳力」を使い始めたのは、実はこの「脳力開発」においてであり、それを造語したのは城野宏先生でした。

# 1-2 ■ 誰もが持っている脳力&感性

脳力開発入門  
P2



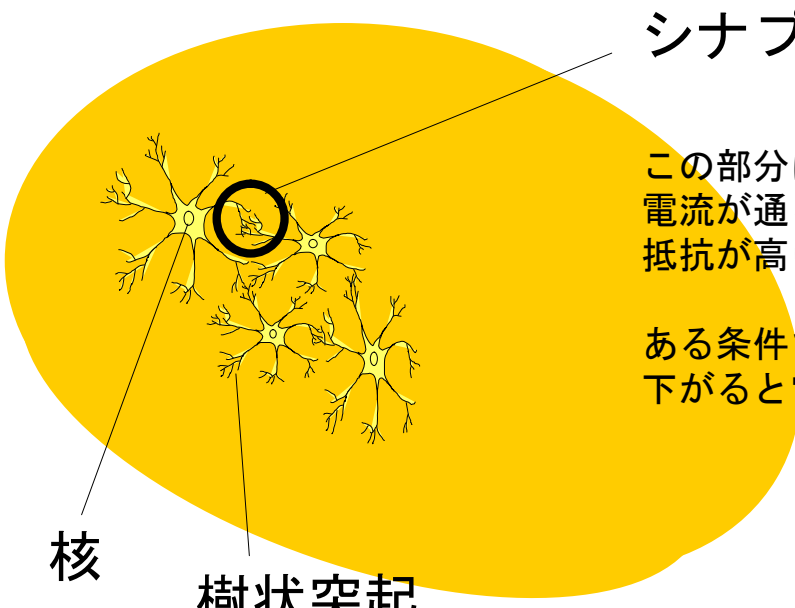
「脳力開発」では、「感性」という言葉はあまり使われていませんが、私は「脳力」とほぼ同じような意味で「感性」をとらえています。厳密に言うなら、「感性」が生み出す力の主たるものを、「脳力」と考えるものです。「脳力開発入門・基礎編」の中で、「大感情」「生命感情」と表現されているものが、まさに「感性」のように思えます。

(「脳力開発入門」P97-98、P183-184)



# 1-3 ■ 脳力は、「脳細胞回路」の結果

脳力開発入門  
P4



この部分は、必ずしも電流が通る訳ではなく、抵抗が高い。

ある条件ではその抵抗が下がると電流が通る。



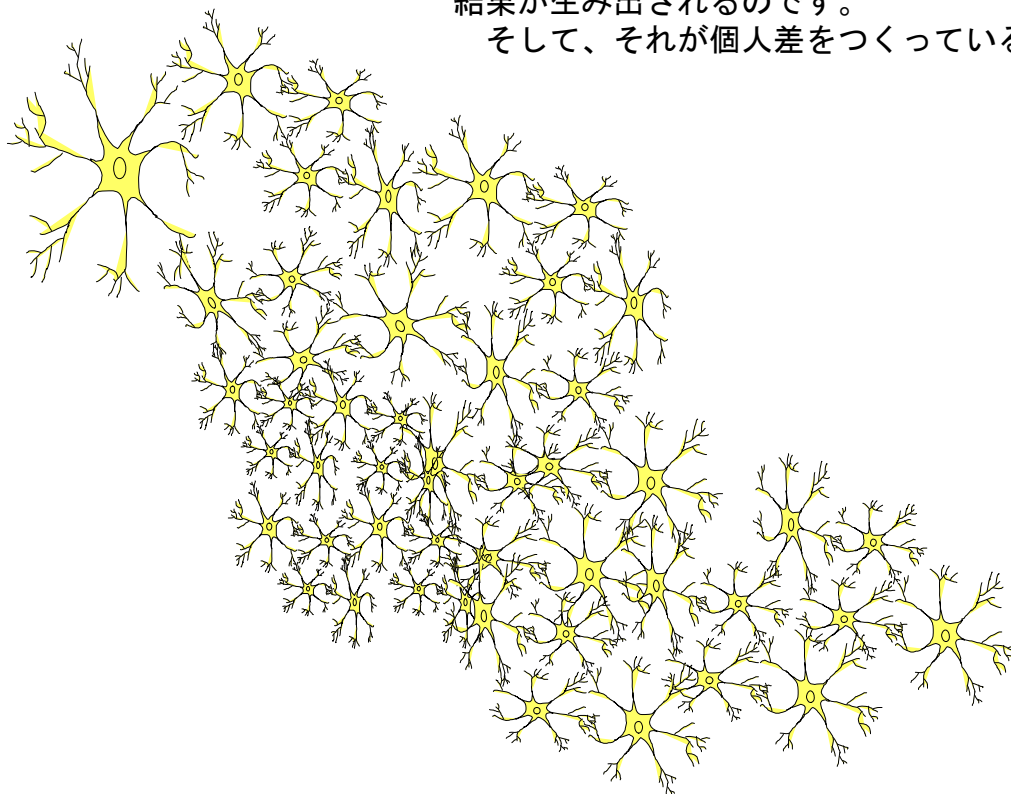
140億個の脳細胞(神経細胞)

- 脳の役割
  - ・ 神経回路を通じて全身から情報を集める。
  - ・ 神経回路を通じて全身に情報を送り、命令を出す。
  - ・ 高度な精神活動・思考活動やそれ以外の自律系や無意識のレベル等生命活動のすべてを司っている。
- 心の所在
  - ・ 全身にあるというのが正しいのですが、主要機能はやはり脳に集中しています。

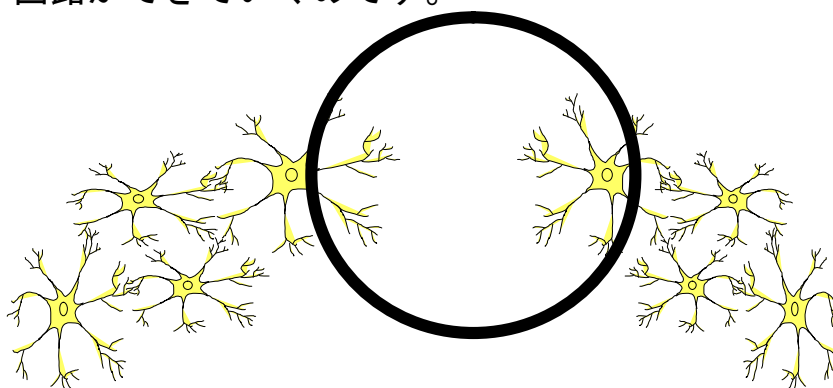
# 1-4 ■ つなぐ力・つながる力

脳力開発入門  
P5-8

無限とも言える脳細胞回路の組み合わせがあり、そこから具体的な実際の脳の働きと、結果が生み出されるのです。  
そして、それが個人差をつくっているのです。



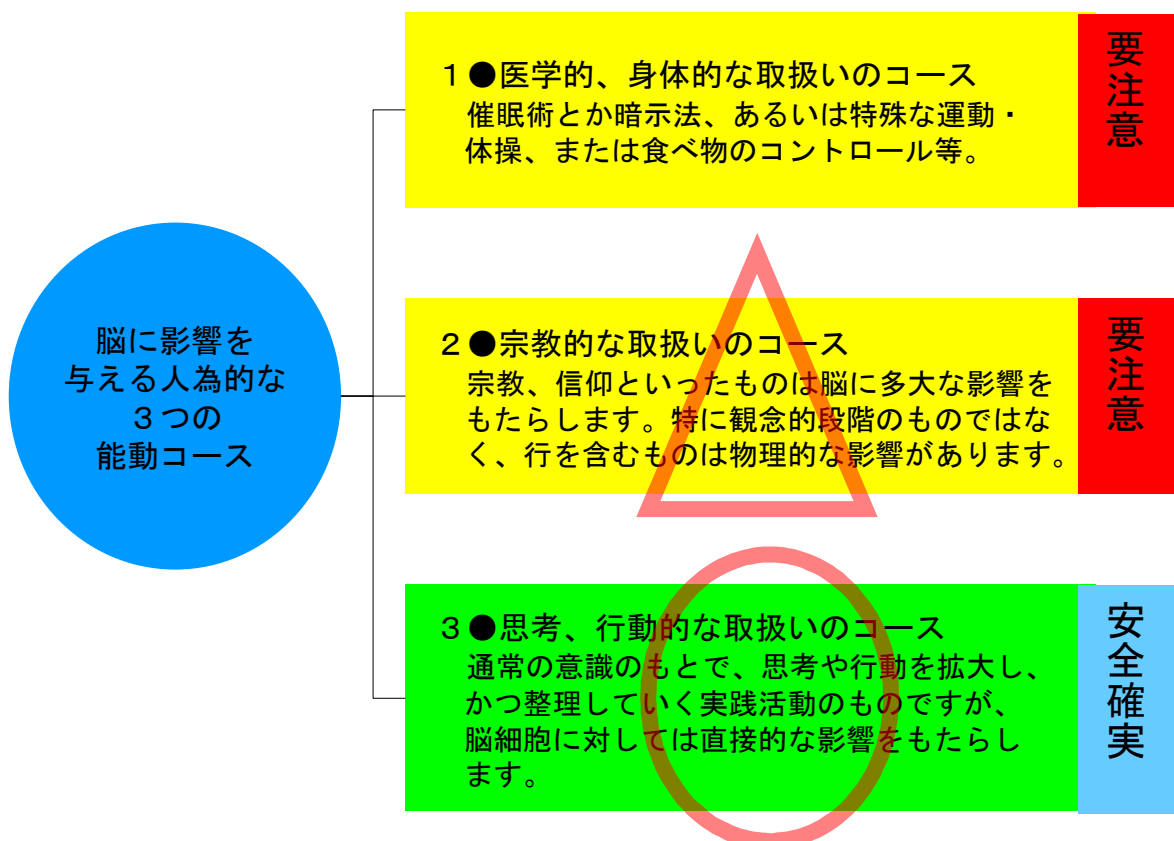
実際に行動をとった時に  
しっかりとつながって、  
回路ができていくのです。



そして、基本的な回路は幼児期に  
出来上がりますが、成人になっても  
変えていくことはできます。

# 1-5 ■ 思考・行動から入りましょう!

脳力開発入門  
P9-11



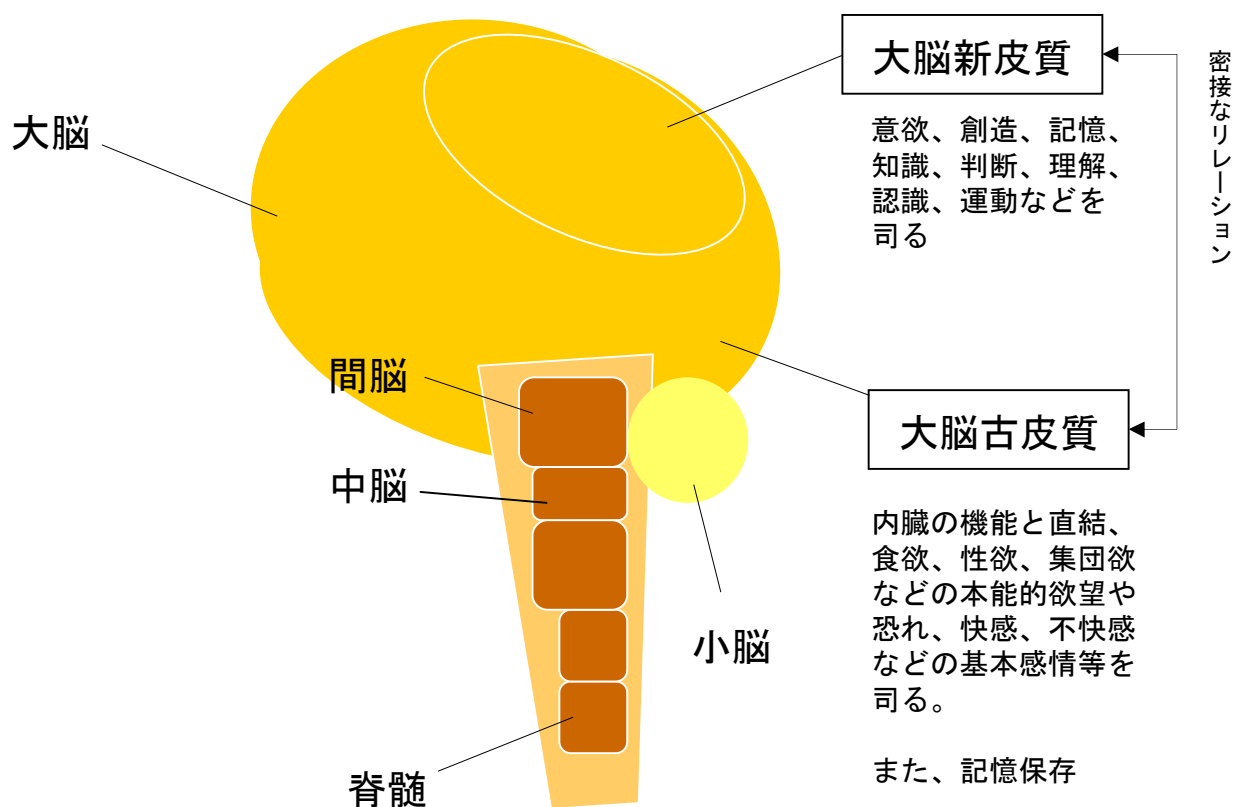
★普通の意識のもとで思考や行動を自ら強制したり、修正したりする反復によって「脳細胞回路」を改築したり、新築したりしていくことが私たちの脳力開発の原理上の趣旨。

「脳力開発」では、「当り前のことを当り前に」やりながら進めて行くことをオススメしています。結果を急ぐあまりに具合の悪いことが生じてしまってはいけませんから。

「できることから、やれることから」自分づくりを進めていけるところが「脳力開発」のいいところです。

# 1-6 ■ 脳の分業

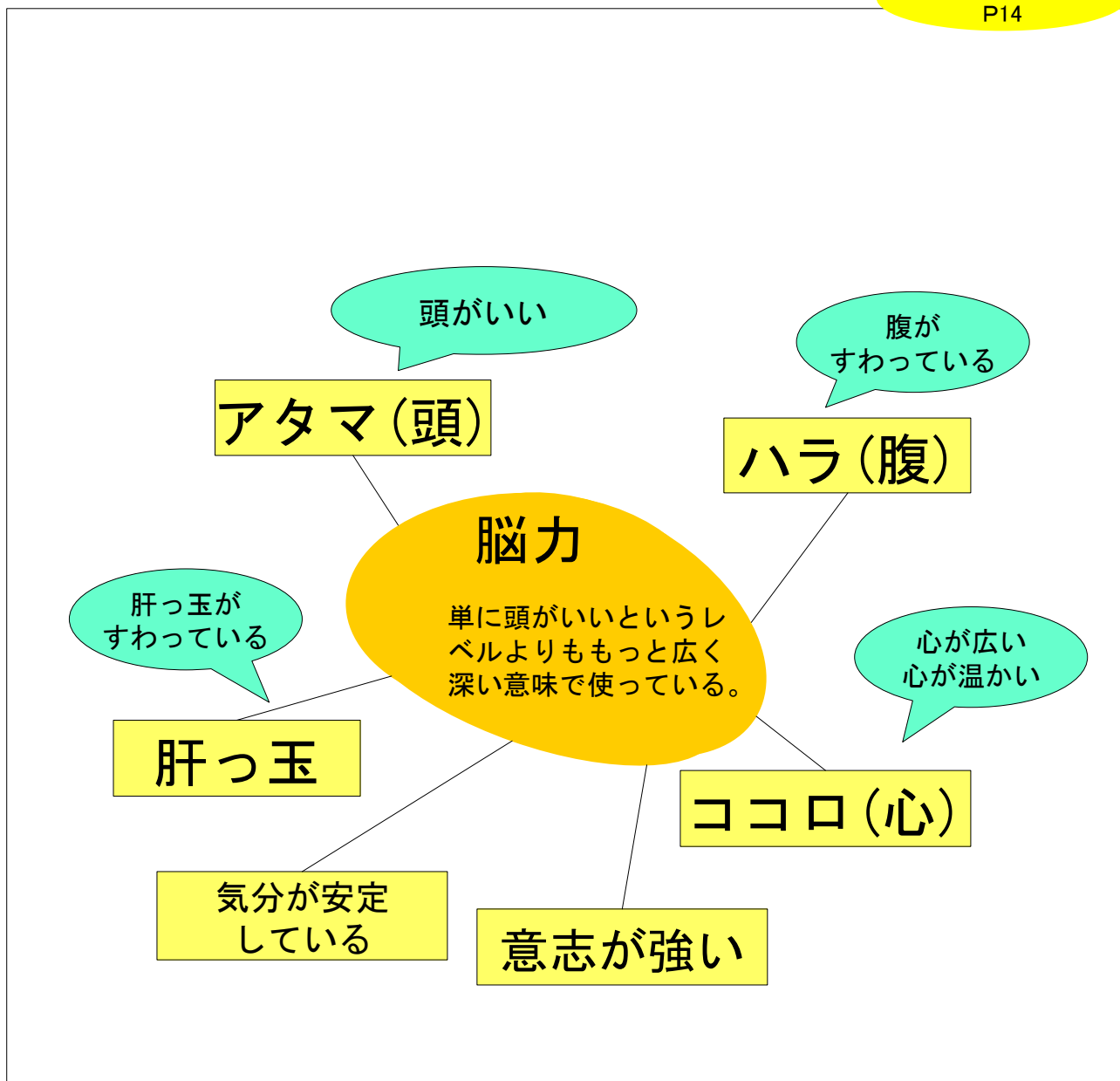
## ◆ 脳の分業



脳の研究はここ10数年で飛躍的な成果を生み出しています。脳力開発の内容は、20数年前の研究成果をベースとしているので、その分野については内容が古くなっているということをご承知下さい。

それでも、わかりやすく説明するためには十分なものです。ただし、講師レベルの方は相応の最新の理論や成果について勉強しておいていただければと思います。

# 1-7 ■「頭のおしあし」と「脳力」

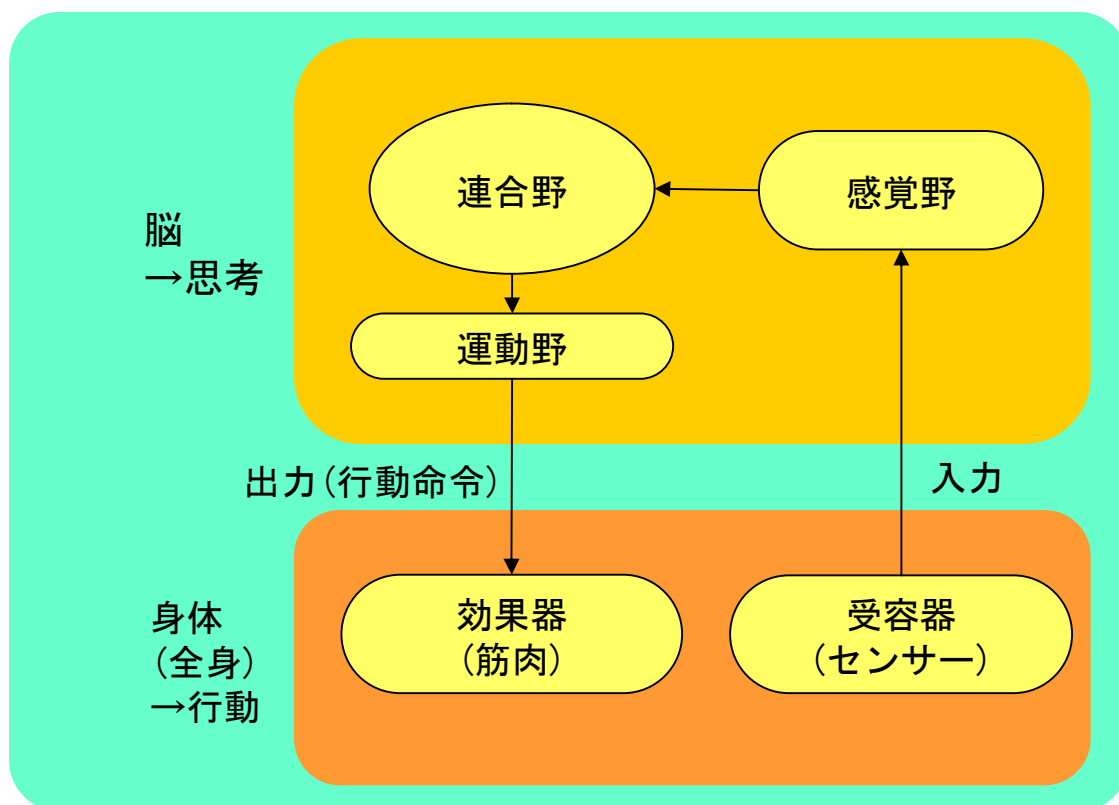


「頭がいい」というだけでは、いい人生・豊かな人生・愉快的な人生という訳にはいかないようです。頭はいいに越したことはありませんが、もっと大事なものは、心とか、腹とか、肝とか言われるところにあります。

「脳力開発」でも「感性論哲学」でも、また整体においても有名な「野口整体」でもまったく同じようなことが言われています。

# 1-8 ■ 行動と脳力。行動に脳力が現れる

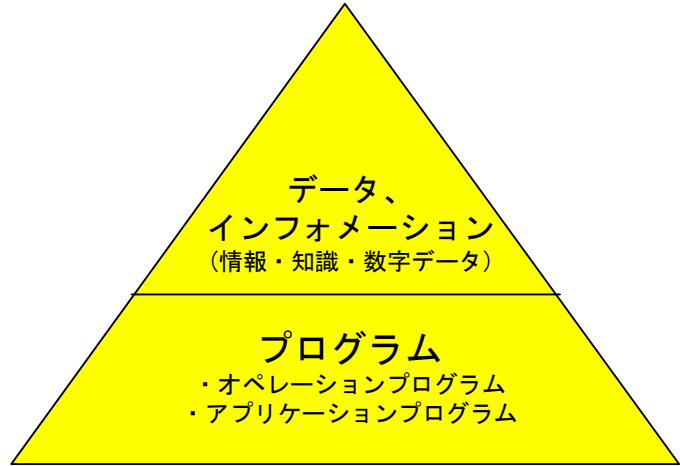
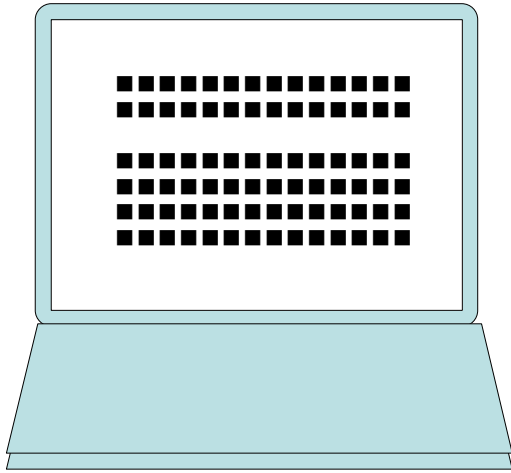
脳力開発入門  
P15-16



行動と思考とは、サイクルをなす一体のものであって、行動のないところに本当の思考はなく、また思考のないところに意義ある行動はないのです。脳力開発では行動を絶対的な前提においています。

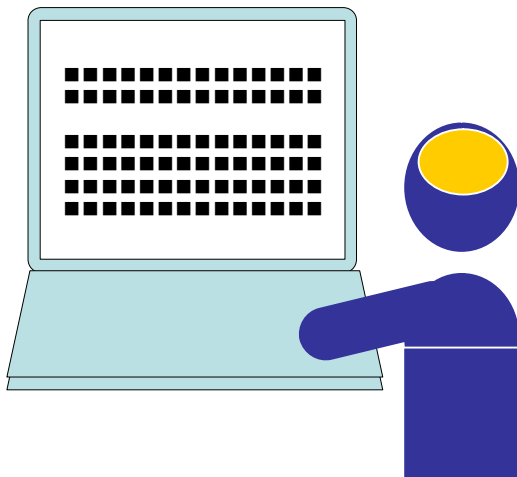
## 2-1 ■ データとプログラム。電流回路

脳力開発入門  
P20-21

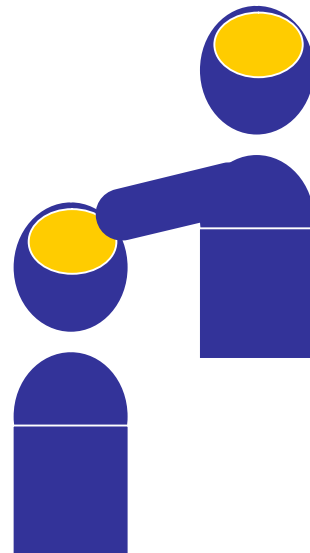


【5つの核動作を組み合わせて機能する】

- 1 ■ 集める
- 2 ■ 分ける
- 3 ■ 比べる
- 4 ■ 組み合わせる
- 5 ■ 選ぶ



コンピュータは、プログラム(命令)を人間がしなければ動きません。

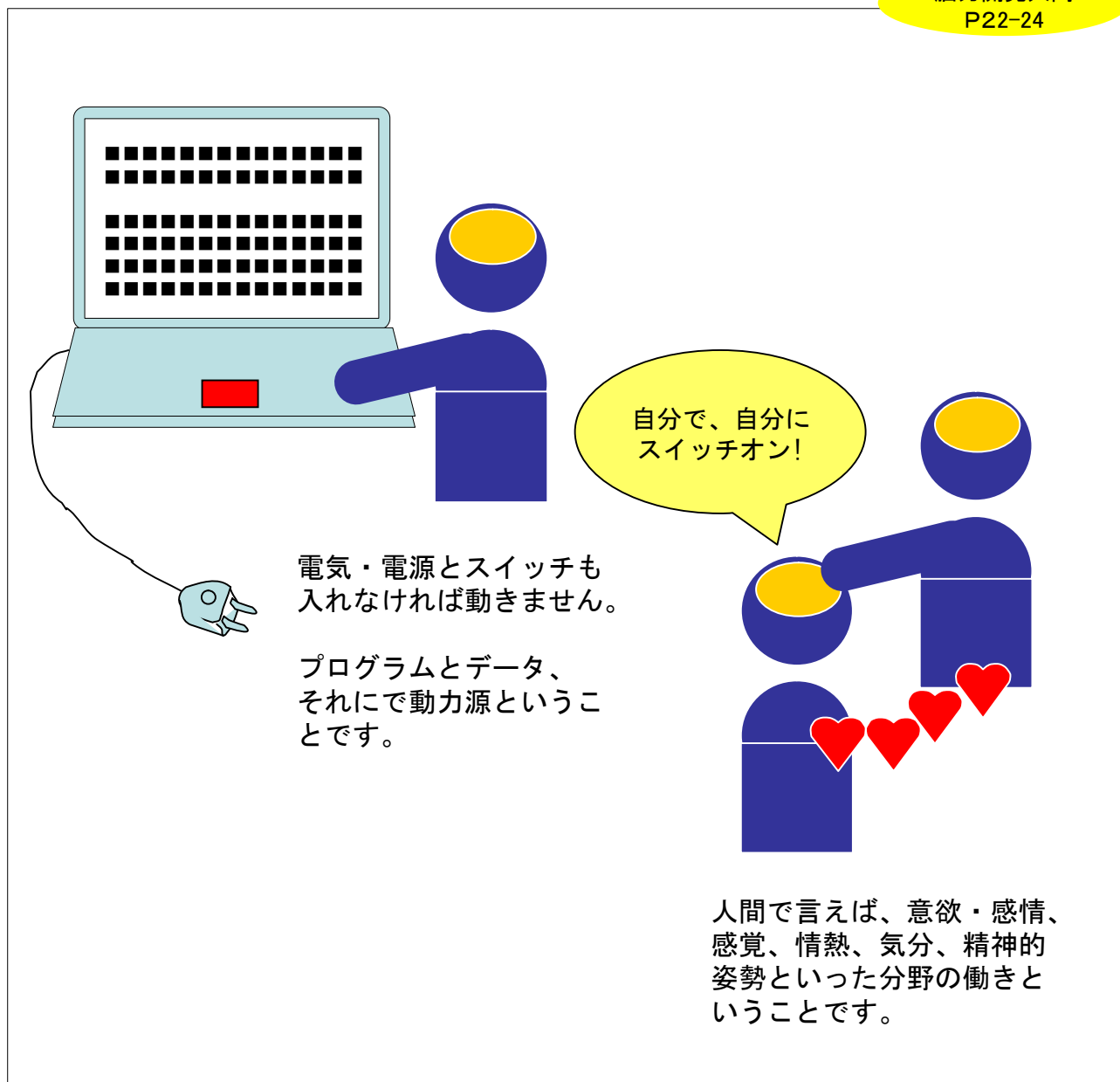


人間は、プログラム(命令)を自分自身がしなければ動きません。

暗記はプログラムにはなりません。命令能力を持っていないからです。

## 2-2 ■ 原動力(動力源)、スイッチ・ON!

脳力開発入門  
P22-24



遺伝子工学で有名な村上和雄先生もおっしゃっている「スイッチ・オン」ということです。「気を入れる」とか、「物事を前向きに考える」とか「積極的にやる」とか、すべてはこのスイッチを入れないことには始まらないということです。

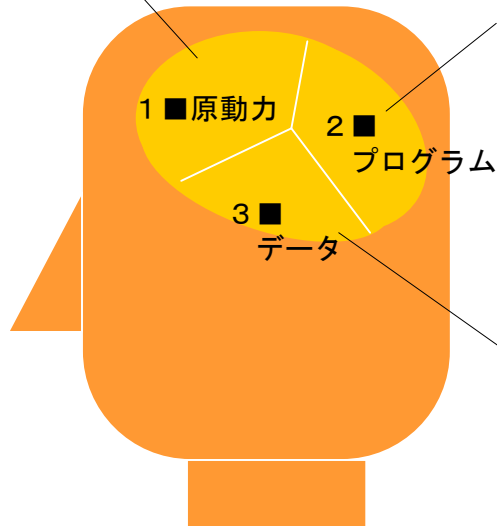


## 2-3 ■ 脳力開発の3面

脳力開発入門  
P25-26

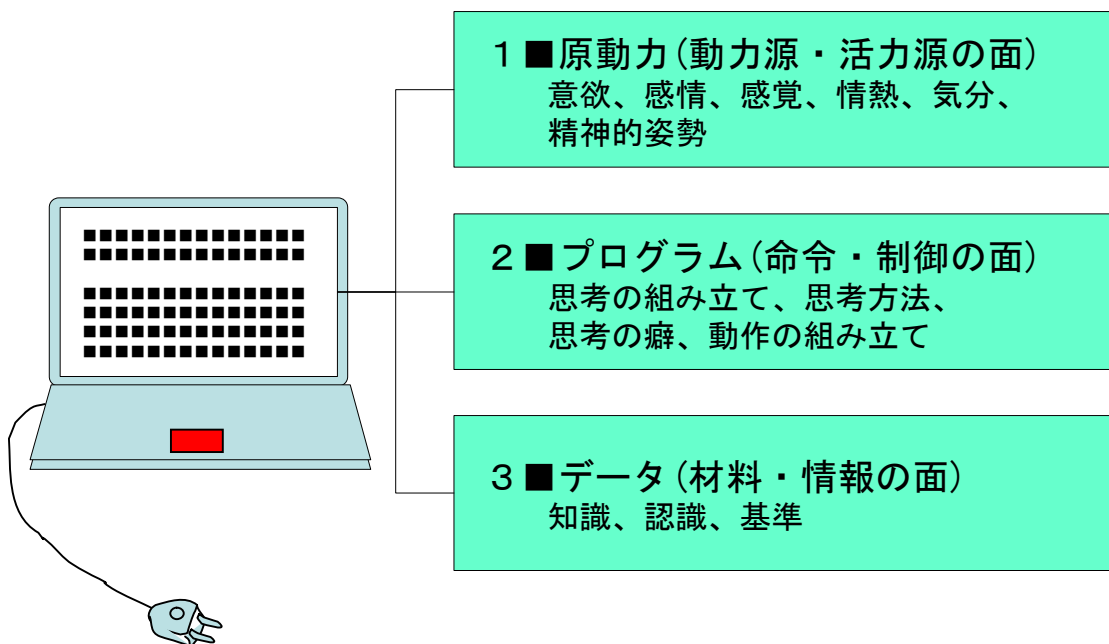
頻繁に、真剣に使う  
(「心」の充実)

効率よく、上手に使う  
(「思考力」の向上)



幅広く、多様に使う  
(「知識」の拡大発展)

それぞれの面とも、基礎から応用の細部に至るまで、組織的に訓練をつんで体系的な脳力の向上を図らなければなりません。



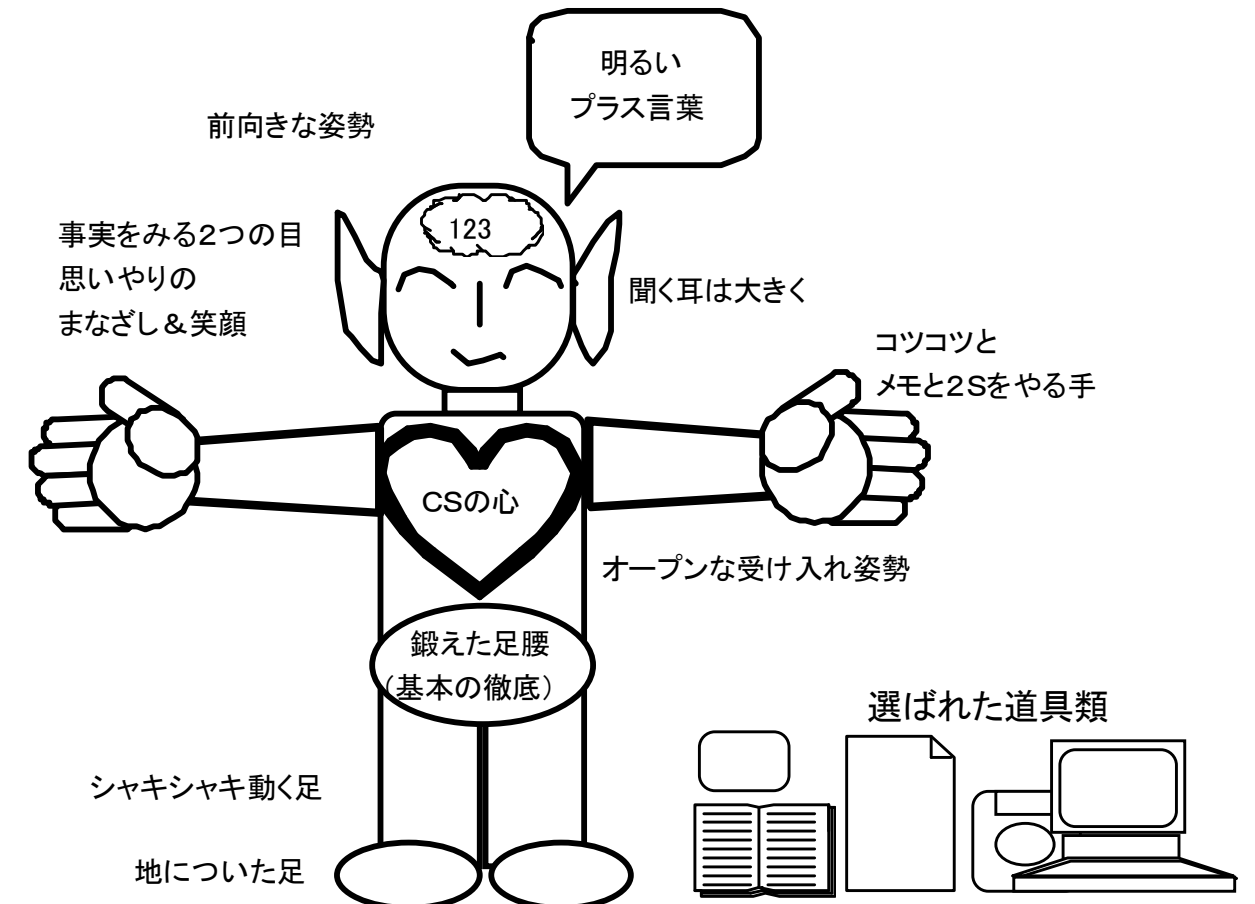
## 2-4 ■ 回路を変えていくために!

脳力開発入門  
P27

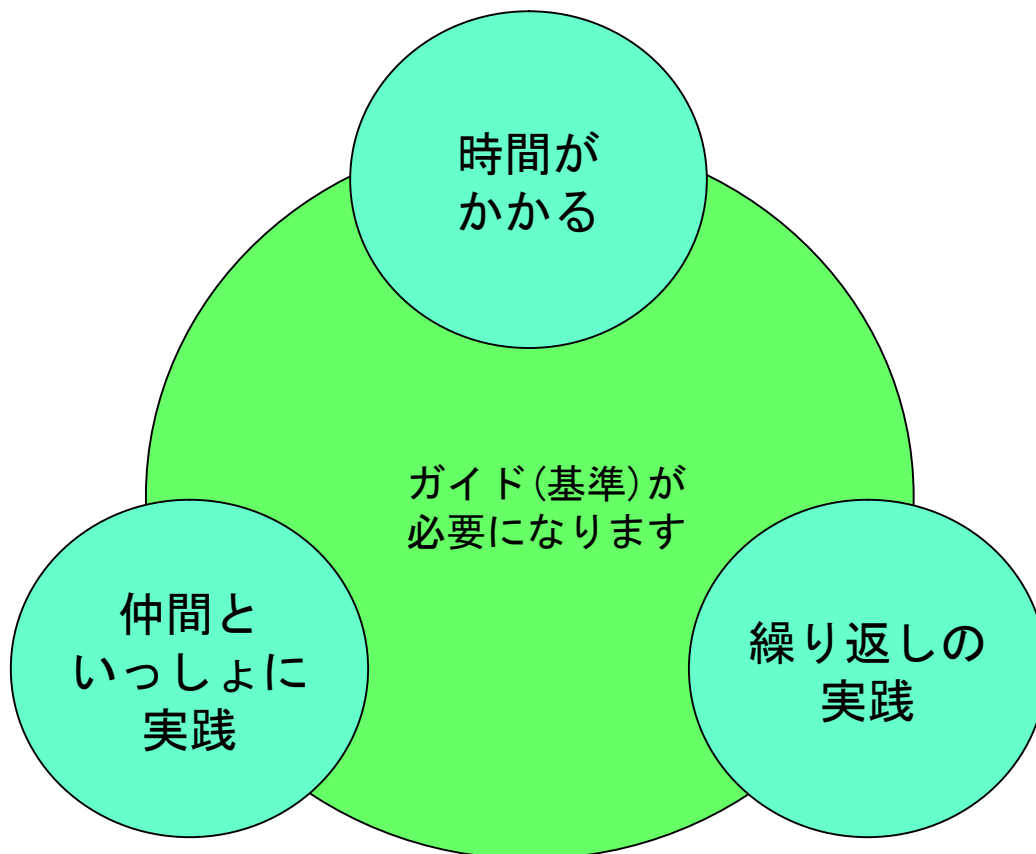
まず、自分が「現状はまだまずい」という点に  
具体的に気づいて、それを意識する

自分が「それを変えたい」と希望し、  
さらに「変えるぞ」と決心する

粘り強く、強制的に実行し続ける。  
これがないと、すぐに元へ戻ってしまう。



## 2-5 ■ ガイドや基準が必要



「脳力開発」におけるガイドとは、入門書としての「脳力開発入門・基礎編」です。「感性論哲学」や「感性経営」におけるガイドとしては、入門書としての「絵解き・感性論哲学入門 みんな感性から始まった」、「感性経営の5原則」「感性経営原理原則集・手帳版」等が挙げられます。また、「コリンローズの加速学習」も当プログラムの足りない点を補ってくれています。

## 3-1 ■ いつでも、どこでも、何でも!

脳力開発入門  
P35-36

誰が  
やるの?

もちろん、あなた自身です。  
他人はやってくれません。

いつ・どこで  
やるの?

いつでも・どこでも。日々  
の仕事、家庭などすべて。

何を対象に  
やるのか?

これもまったく無制限。ありとあらゆる  
ものが対象。  
日々ぶつかっている  
問題や新しい目標へ  
の挑戦などの材料が  
最適です。

なぜ  
やるの?

人のお役に立ち、人格・人  
間性を向上させ、人生を楽  
しく、愉快地に過ごすため。

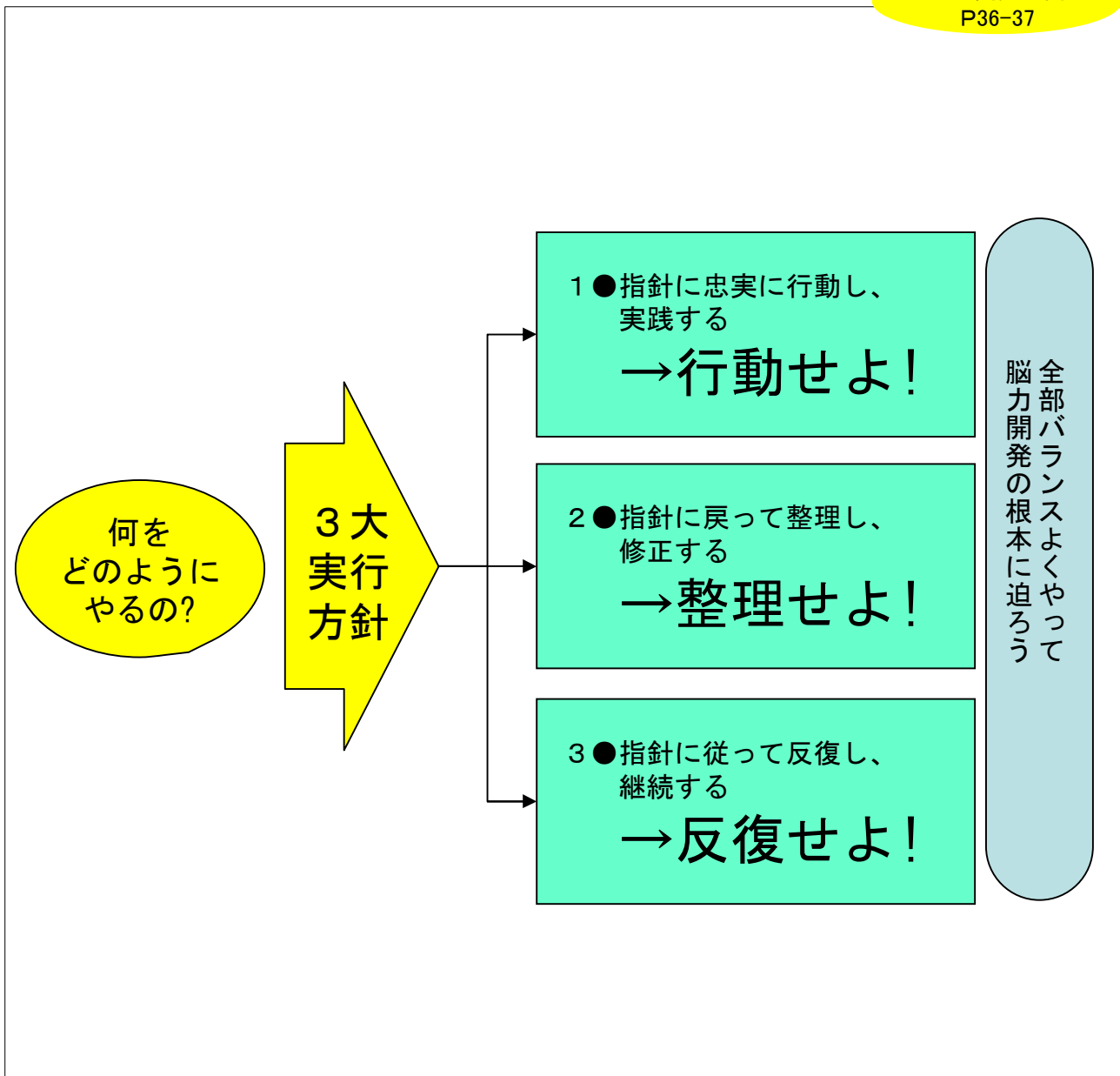
何を  
どのように  
やるの?

まずは、当テキストや指針  
集を拠り所とし、日々の問  
題・課題に対応していく。

- やるのは、あなた。あなた自身です。
- いつでも、どこでもやれるのが脳力開発です。
- どんなものでも脳力開発の対象になります。
- よりよい人生、よりよい自分づくり、  
一歩進めて世のため・人のために役立てられるためにやるのです。
- ここにおいては、脳力開発の原理原則に則って、ということです。  
感性論哲学、加速学習、野口整体などもおススメです。

## 3-2 ■ 指針・原理原則を使いこなす!

脳力開発入門  
P36-37



まずは、当テキストや「脳力開発入門・基礎編」や「脳力開発・指針集」を拠り所として、日々の問題・課題に対応していきましょう。

そのための基本として「3大実行方針」が示されています。

●行動せよ! ●整理せよ! ●反復せよ!

くれぐれも肝に銘じて実行することが重要です。

## 3-3 ■ 指針を使って問題に対処していく!

脳力開発入門  
P38-39

読まずに  
見るだけでも  
いいよ

# 指針とは、

「普遍的な原理・道理」  
それ自体は、まだ具体的な問題に  
対する具体的な答ではなく、物事  
に共通な本質をごく短い言葉で端  
的に表現しているもの。  
一般的かつ抽象的

それゆえ、

- 「使いこなす」ことが  
絶対条件。そのためにも  
頻繁に「意識にぶつける」  
ことが大事。

指針集を  
いつも身に着けて  
使おう!

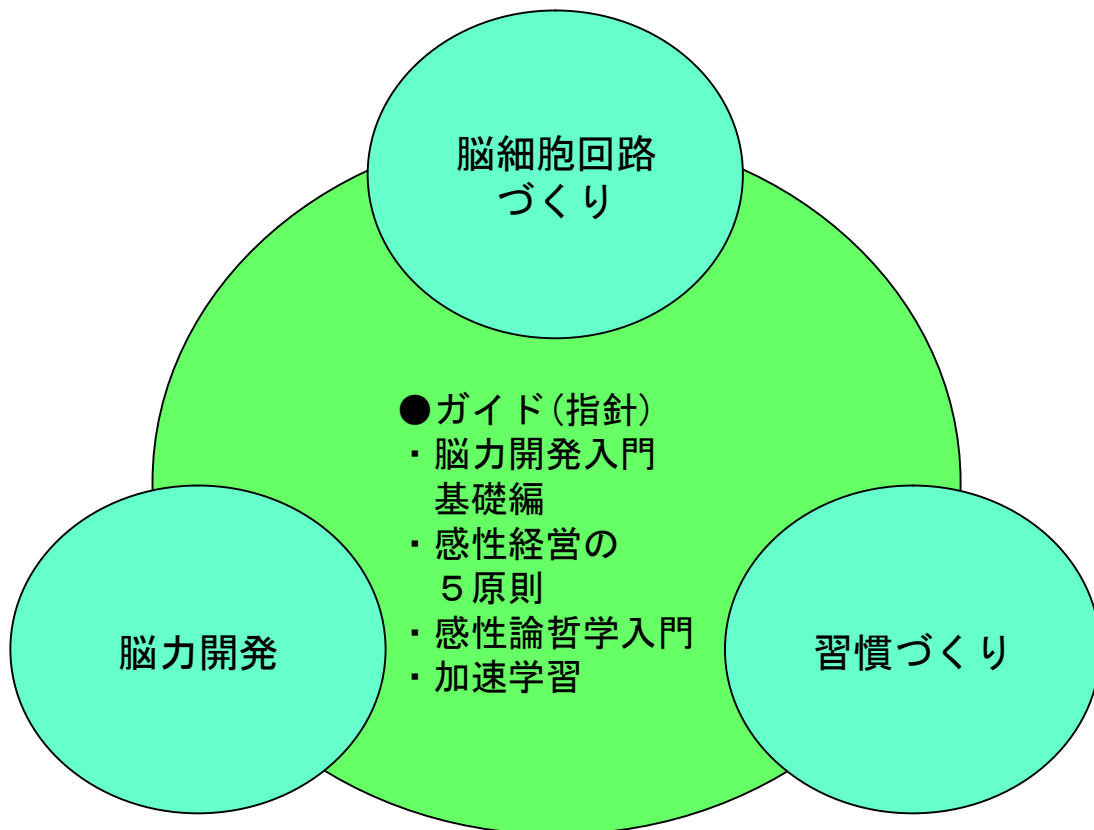
- 1 ● 指針はできるだけ  
覚えようと思うな!
- 2 ● ともかく頻繁に  
指針集を開け!
- 3 ● わかりきった指針でも  
改めて使え!

あくまでも、指針は使うためのものとして活用しましょう。後生大事にしまっておいたり、飾っておくものではありません。何に使うのかというと、それはみなさんがそれぞれに抱えている問題や課題に対して使っていくということです。

問題を恐れてはいけません。問題から逃げてはなりません。問題はあなたを鍛えるために出てきているものなのですから。

## 3-4 ■ 習慣にして楽にやれるようにする

脳力開発入門  
P40-44



何も考えずに、自然にスラスラできたらどんなにか楽でいいでしょう。みなさんは、食事をする時に、いちいちどうハシを何を持って、どうお茶碗を持って、おかずをどう取ろうか、どう食べようか、などと考えませんよね。思うままに好きなようにしていますよね。それと同じように習慣にしてしまうということがポイントです。

## 3-5 ■ みんなでいっしょに進める

脳力開発入門  
P44-45

### ◆集まってやることに意義・・・

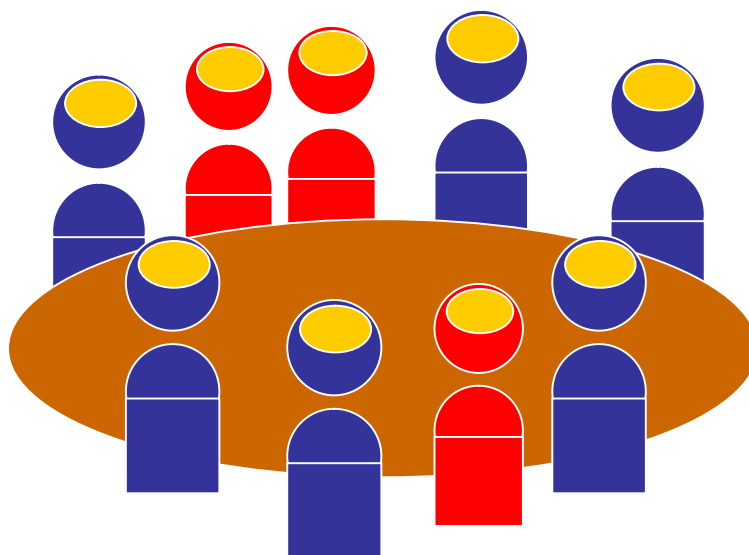
一人だけだと、忘れたり、ずるけたりして続けるのが難しい。  
仲間がいると続けられる。励ましたり、相談し合ったりして進める。  
力を合わせることでパワーが格段にアップする！

### ◆人にわからせる実践・・・

教えることで自分が覚える。教えることが最大の勉強になる。  
生半可の理解では人に教えられないから、真剣にやる。

### ◆進歩、成果をはかる・・・

- ・その人の「行動」に変化が出てくれば、成果の現れ
- ・周囲からの反応が、+に出てくれば、成果の現れ

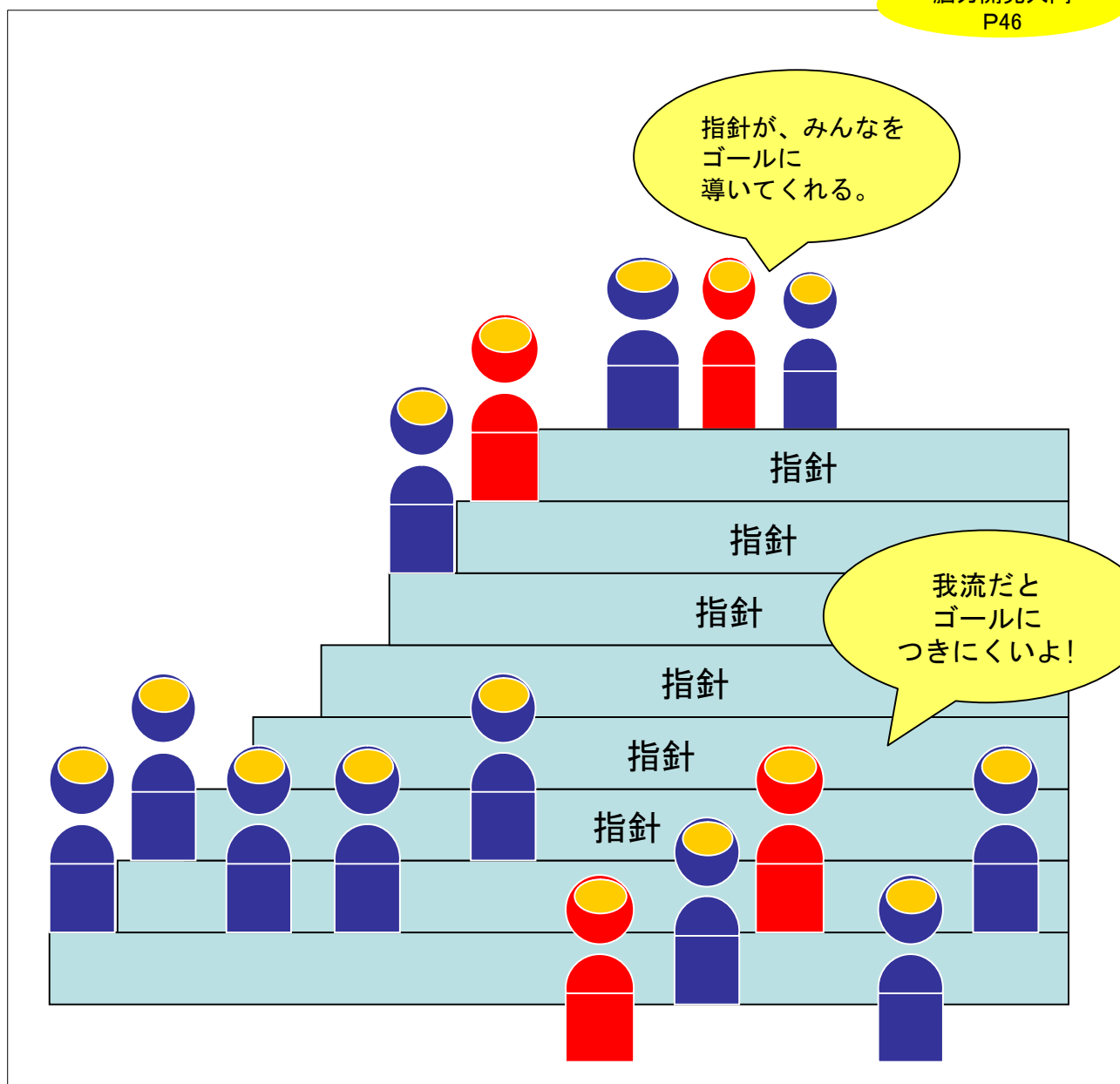


「最高の脳力」とは、「みんなで力を合わせる力」だと「脳力開発」では言っています。「感性論哲学」で言う「愛」の力です。それぞれの個性を発揮をしながら、それらの個性を認め合いながら、足りない点を補い合い、良い点を活かし合いながら進めて行くのが、これからの物事の進め方です。



### 3-6 ■ 指針や原理原則に忠実にやるのみ

脳力開発入門  
P46



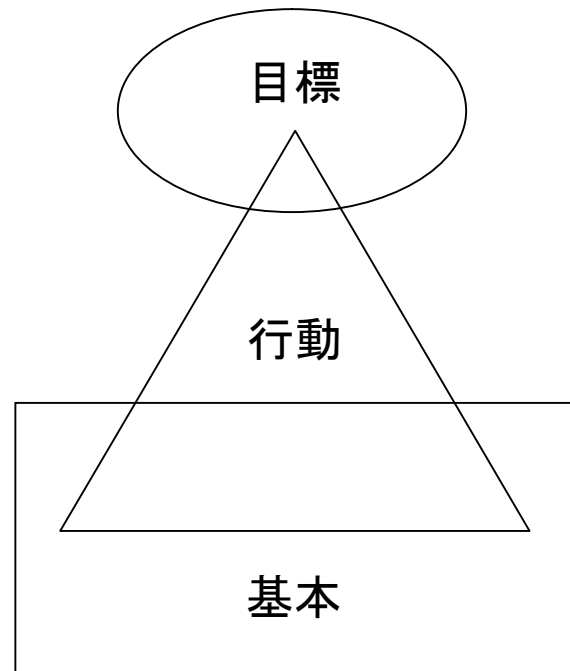
とにかく、「やるべきことをやる」ということ。つまり「基本に忠実にやること」。基本とは、「指針や原理原則」のこと。「仕事のABC」というのがあり、「当り前のことを、バカになって、ちゃんとやる」を文字って「ABC」としてあるのですが、それも同じですね。

「感性経営」の実践についても、やはり「仕事の基本の基本」を最も大事にしています。

## 4-1 ■ 当り前のことが一番大事!

### 【脳力開発の要諦】

- 凡事徹底
- 平凡なことを、  
平凡に、  
反復する。
- 当り前のことを、  
バカになって、  
ちゃんとやる。



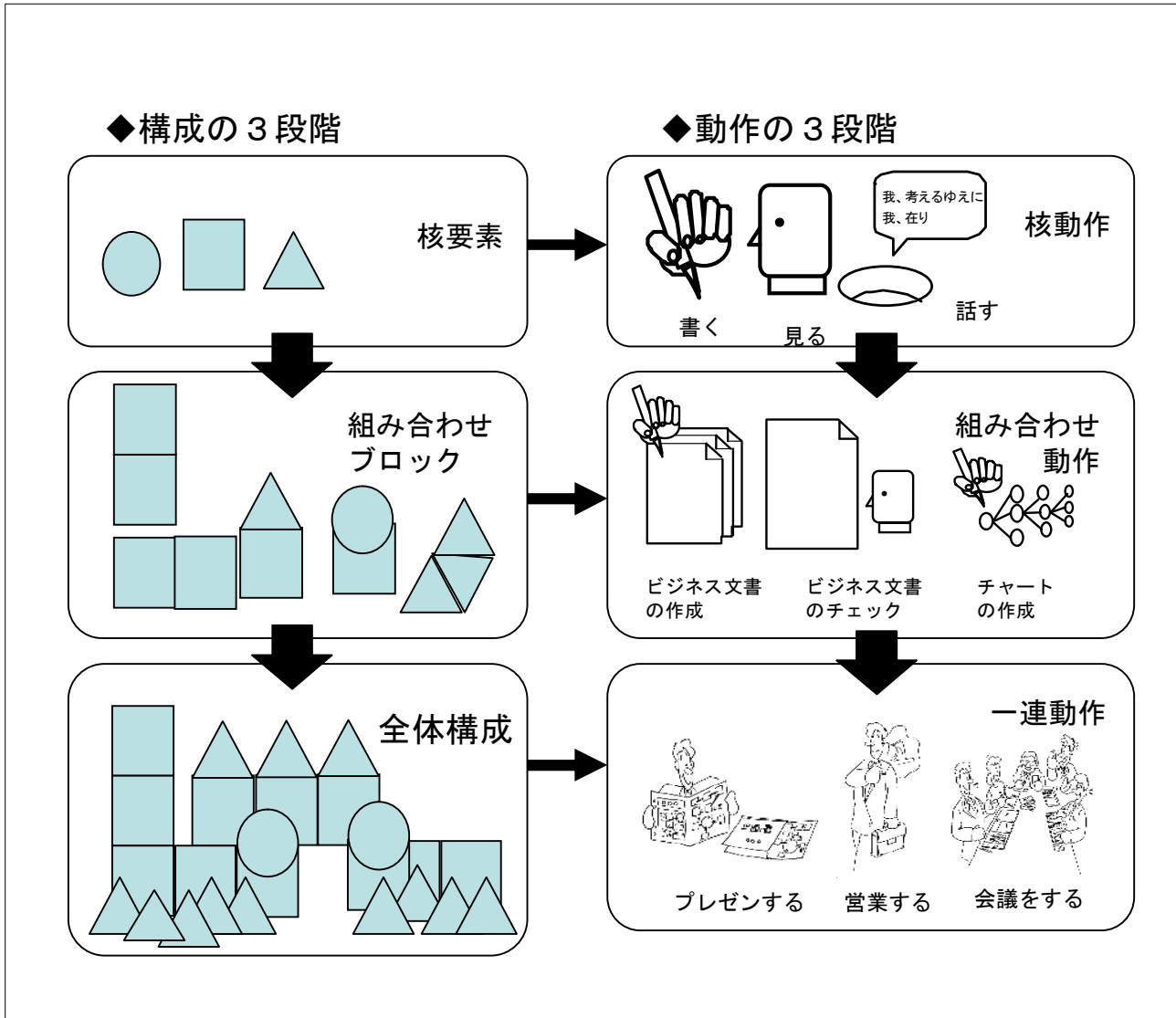
凡事・平凡なこと・当り前のこと

→つまり、「基本」「基礎」

「当り前のこと」は、あまりに当り前すぎて、言葉としてはよく知っているために、「できる・やれる」と思い違いをしてしまうもののようです。

「知っていること」と「わかっていること」は違います。「わかっていること」と「行なうこと」とは違います。「行なうこと」と「できること」とも違います。この違いを行動で埋めていくことが大事です。

# 4-2 ■ 「構成の3段階」と 「動作の3段階」



「ものの見方」の基本がここにあると言ってもいいでしょう。システム思考の原点もここにあります。すべては、まず基本的な要素、核となる要素があって、それらの組み合わせで成り立っており、それらが多くなることで複雑になっていきます。

その仕組みさえわかっているならば、物事の本質を見極める力もついてきます。

# 4-3 ■核動作とは

## ◆核動作とは

核動作

書く 見る 話す

我、考えるゆえに  
我、在り

Detailed description: This diagram shows three core actions: '書く' (writing) with a hand holding a pen, '見る' (looking) with a person's head and eyes, and '話す' (talking) with a person's head and mouth. A speech bubble above the talking action contains the text '我、考えるゆえに 我、在り'. The entire diagram is enclosed in an orange rounded rectangle.

「いちいち克明に意識していなくとも自然にスラスラとできてしまう」単位動作。

組み合わせ動作

ビジネス文書の作成 ビジネス文書のチェック チャートの作成

Detailed description: This diagram shows three combined actions: 'ビジネス文書の作成' (business document creation) with a hand writing on a document, 'ビジネス文書のチェック' (business document checking) with a person looking at a document, and 'チャートの作成' (chart creation) with a hand pointing to a chart. The entire diagram is enclosed in an orange rounded rectangle.

条件反射とか、習慣になった動作のこと

一連動作

プレゼンする 営業する 会議をする

Detailed description: This diagram shows three continuous actions: 'プレゼンする' (presenting) with a person at a podium, '営業する' (operating) with a person carrying a briefcase, and '会議をする' (meeting) with a group of people around a table. The entire diagram is enclosed in an orange rounded rectangle.

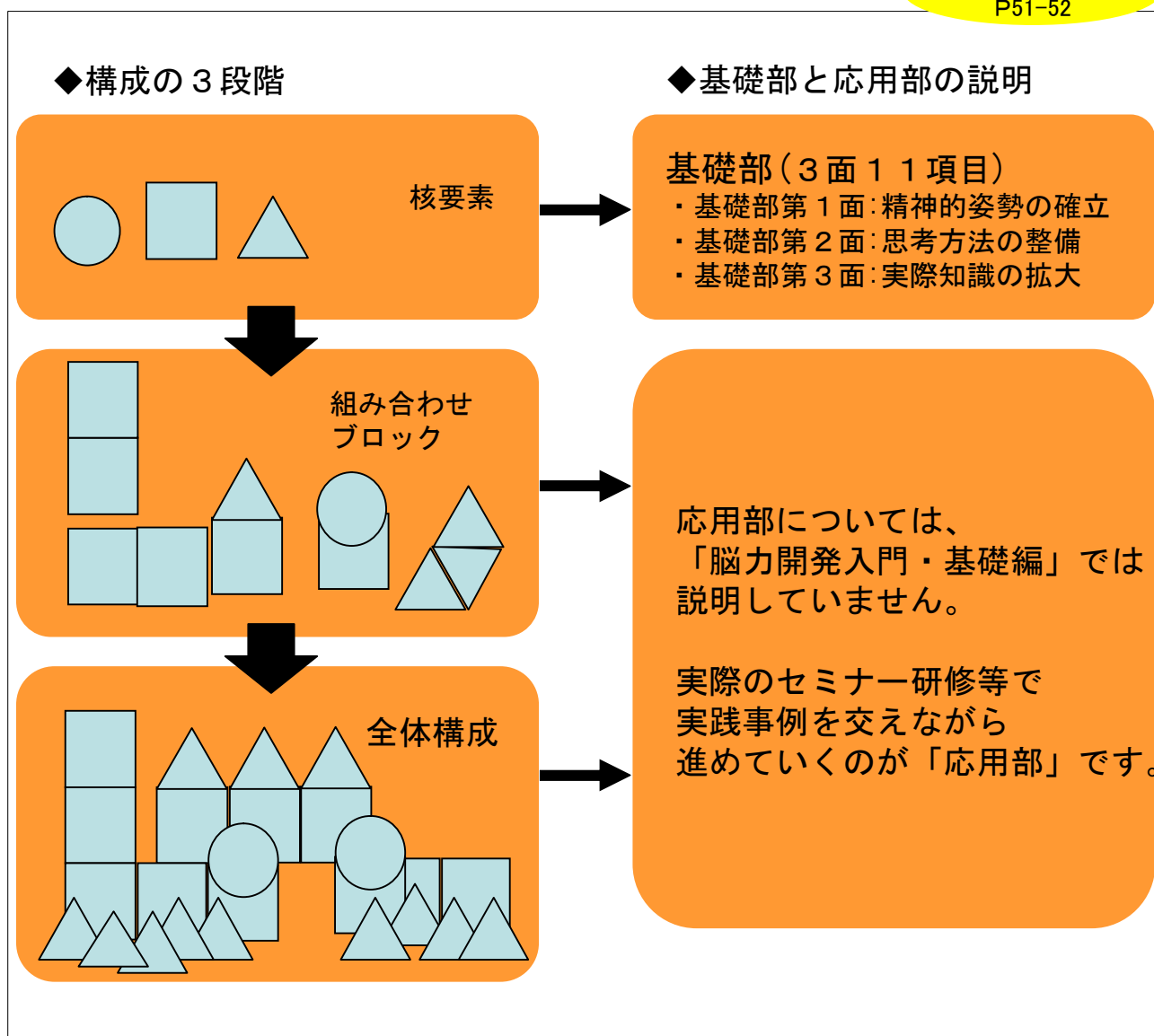
これを「思考動作」(思考プログラム)にもおきかえてみよう!

基本的な要素・核要素ということ、行動という切り口で考えているのがこの項目です。そして、核要素に相当するものとして、「核動作」という表現をしています。

この考え方と進め方は、企業における仕事の考え方・進め方に置き換えてみると、大変に有効なものです。

## 4-4 ■ 構成3段階と 基礎部と応用部の関係

脳力開発入門  
P51-52



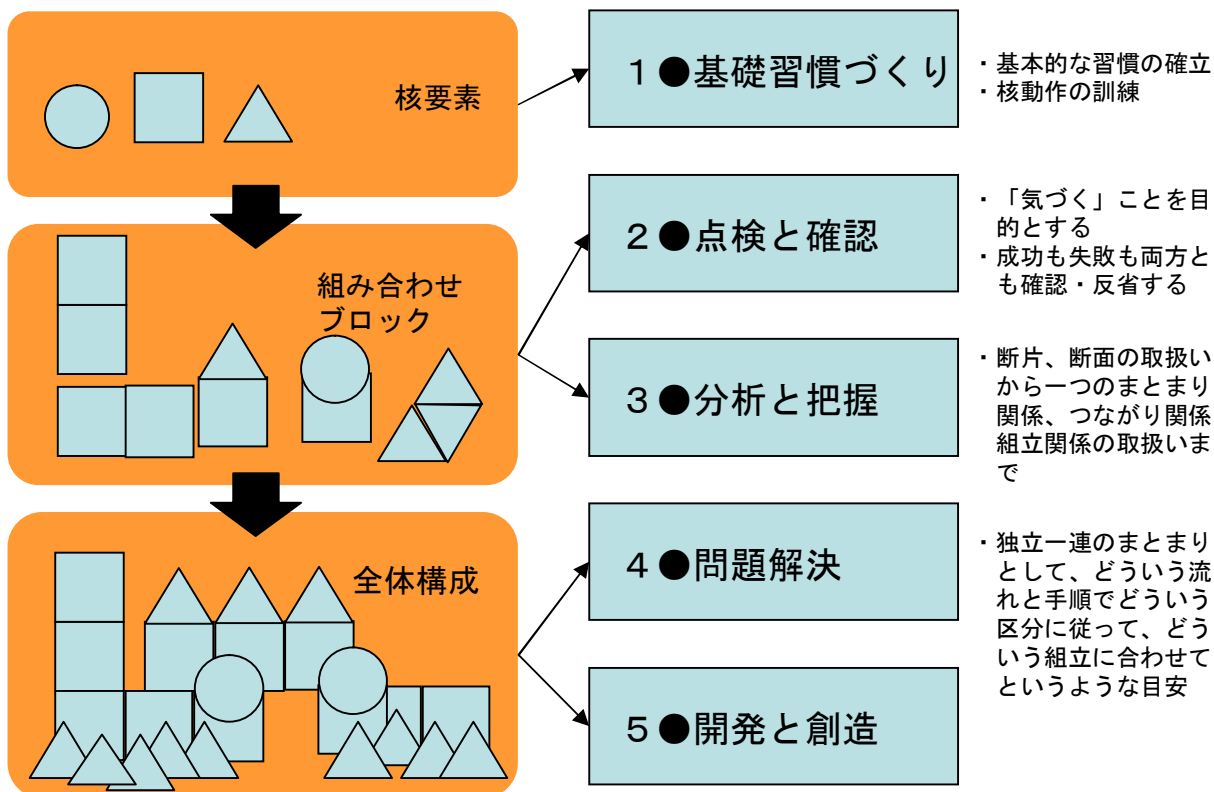
基本的な要素・核要素ということ、物事という切り口で考えているのがこの項目です。そして、核要素-組み合わせブロック-全体構成ということで展開しています。物事を分析したり、組み立てて行ったりする場合に大変に有効な見方・考え方・進め方です。

核要素と核動作をセットで考えながら進めることができるようになるといいですね。

# 4-5 ■ 構成の3段階と5つの実施タイプ

脳力開発入門  
P51-52

## 【構成の3段階】



そして、この脳力開発入門自身もそのような見方・考え方で構築されていることがわかりいただければもっといいですね。それがわかると、この脳力開発の仕組みそのものをあなたの会社の経営にフルに活用することができるようになるからです。

「自創経営」で有名になった東川鷹氏の活用事例は、その典型的な例と言っていいでしょう。

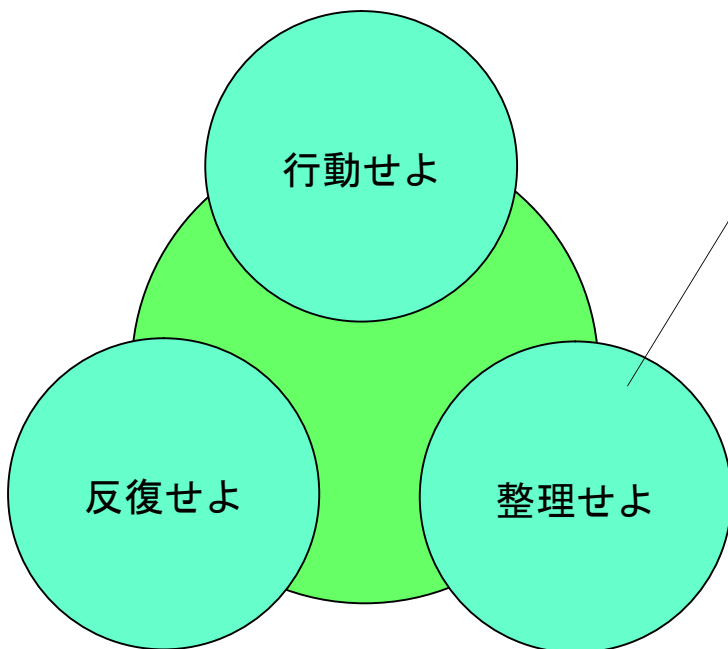
## 4-6 ■ 整理・整頓・清掃から始める

脳力開発入門  
P56-60

整理の訓練は、  
まず断片、断面の整理を  
どしどし  
やってみることから  
始めて下さい。

そのためには、  
メモをよくとること、  
とったメモを整理することが  
大変有効です。

その際に、  
当社のシールメモや  
3Kミニノート、  
メラビア構想シート、  
TA計画シート等を  
使うことをオススメします。



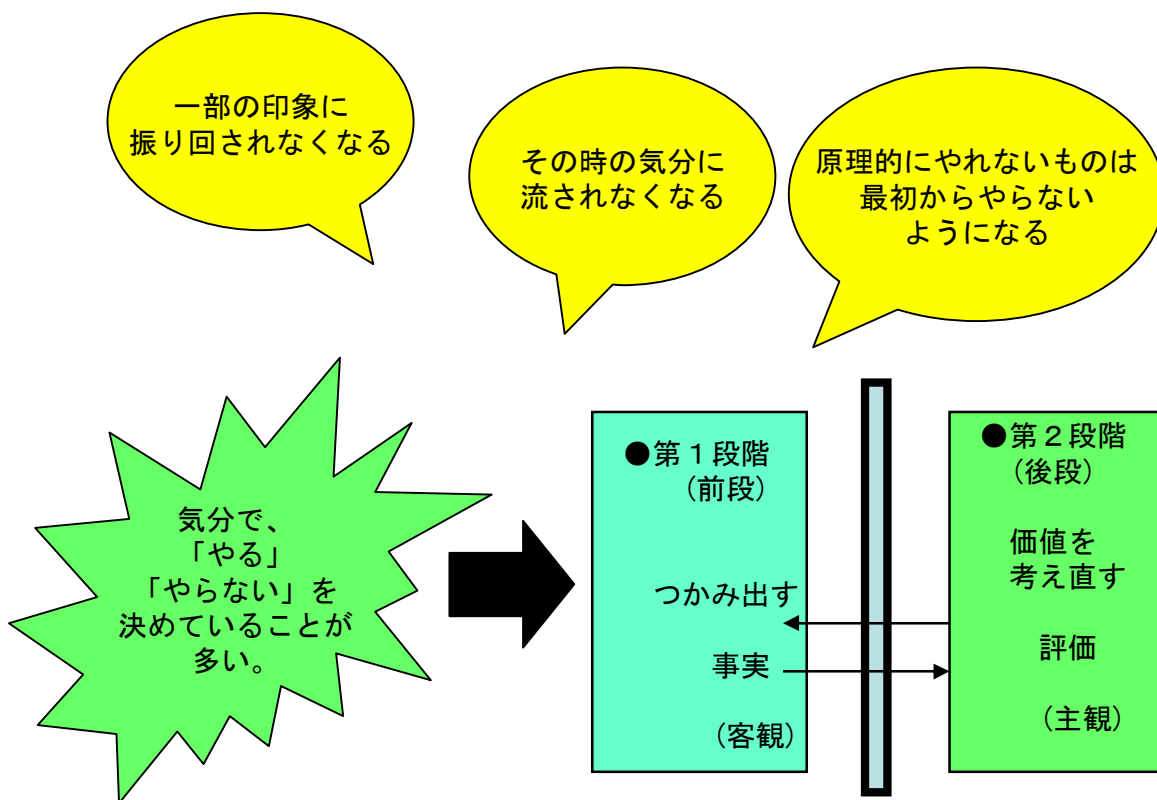
仕事の基本中の基本と言いましたら、やはり第1に「挨拶・返事・あ  
いづち」、第2に「整理・整頓・清掃(3S)」、第3に「ハウレンソウ(報告・  
連絡・相談)」、第4に「メモ・手帳・報告書」と言っていいでしょ。

この「仕事の基本の基本」とも言えることを徹底することが大変重要  
です。

## 4-7 ■ 事実と評価をしっかりと分ける

脳力開発入門  
P61-62

- ◆気分と脳力。◆気分の土台傾向と脳細胞回路。
- ◆2つの面の根源整理。◆一部の印象で振り回される。
- ◆問題を冷静に整理してみると。
- ◆整理と「すっきり、はっきり」。
- ◆気分変動の因子をつかむ。(「つかみ出す整理」が第1段階)



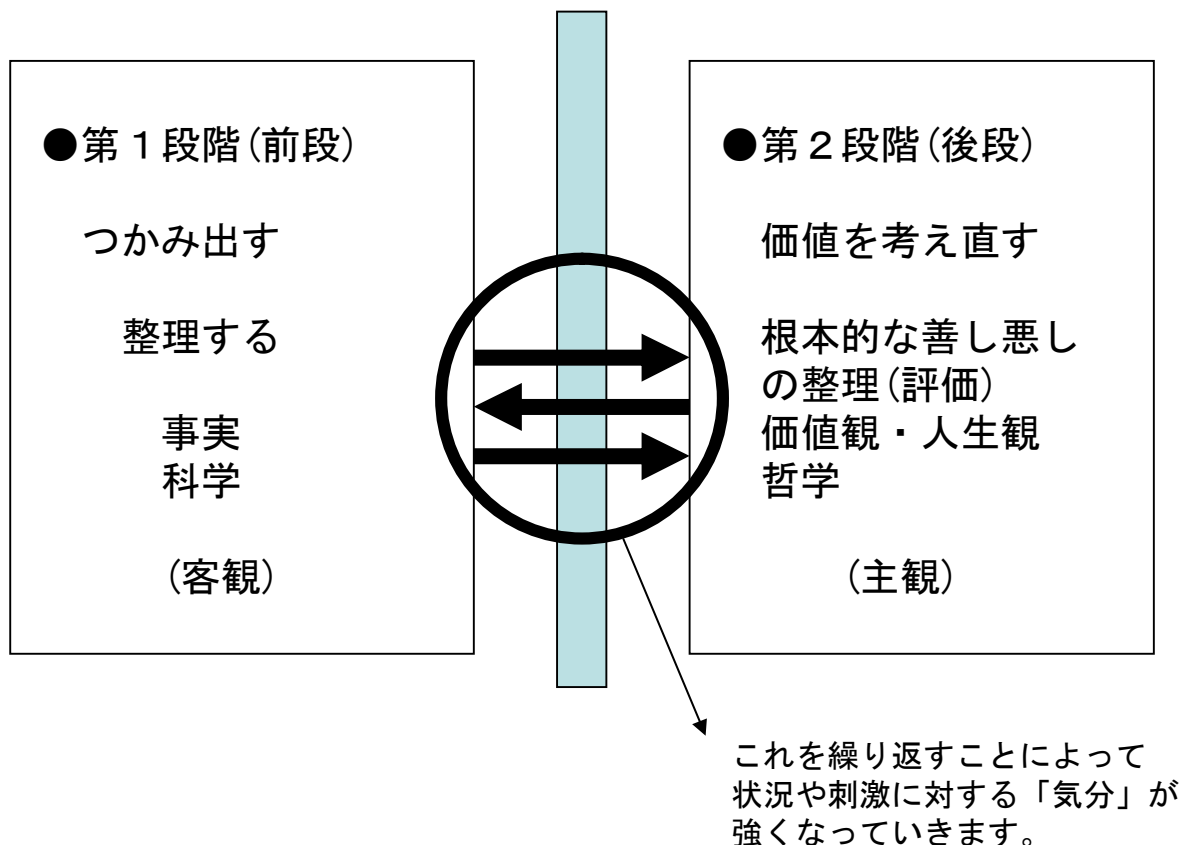
「脳力開発」で言う「気分」とは、単なる思いつきとか、感情的なものです。「感性論哲学」では、感性を洗練させ、洗練された感性の上での「気分」というものを大切にしています。

この辺りは勘違いしやすいので注意して下さい。その意味では、「客観」→「主観」+「主感」(磨かれた自分の感性)というように「感性」の要素を入れて考えるのもいいかもしれません。



## 4-8 ■ つかみ出し、考え直す。繰り返す

脳力開発入門  
P61-62



これを実践するためには、「4色ボールペン+シャープペン」を用いた、山本英夫が考案した「FEIT-Zメモ法」がおすすめです。

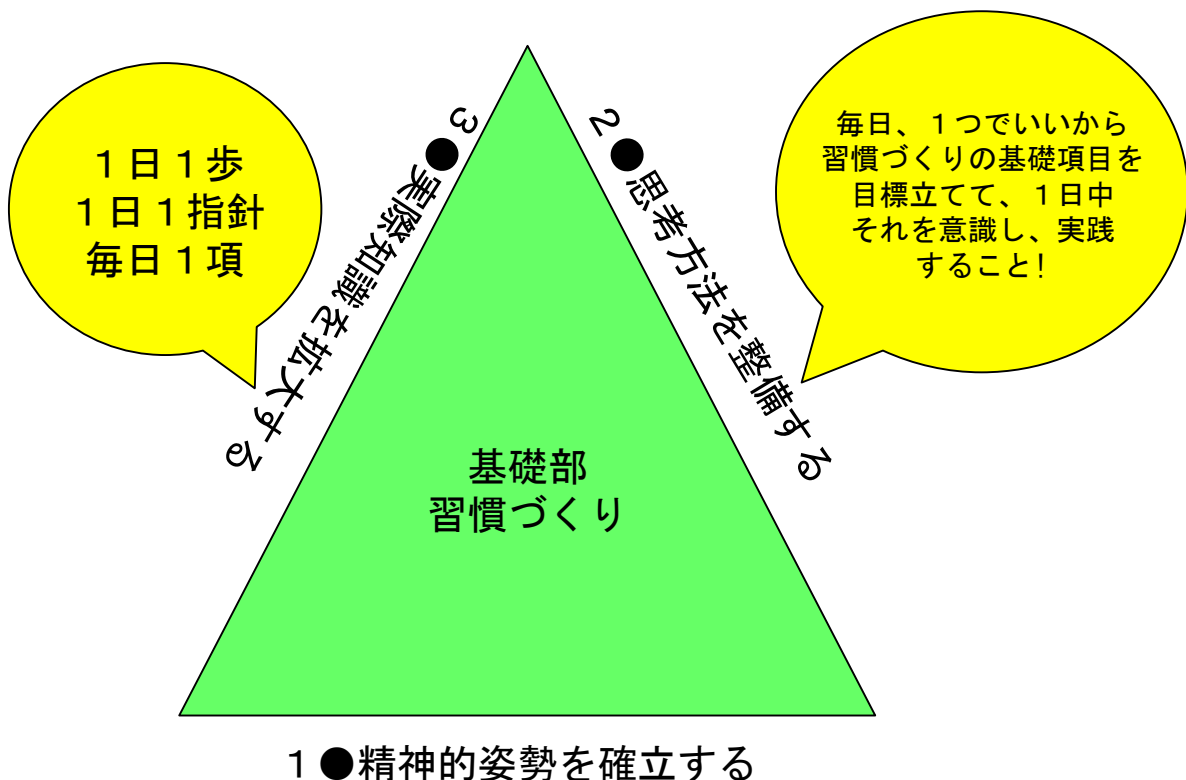
黒—赤—緑—青、そしてシャープペンの灰色の5色となります。それぞれの色を以下のように割り振って書き進めると大変に頭の整理に役立ちます。

黒→事実、赤→情緒的感情的な事柄、緑→アイデア、企画発想  
青→やるべき事柄、TO-DOリスト、灰→手帳の日程欄に記入

## 4-9 ■ 基礎部「習慣づくり」の3面

脳力開発入門  
P63-64

新しい時代の、新しい生き方における新しい習慣を身につけていくつもりで取り組みましょう。土台の習慣ほど根強く強度な反省と意識の持続が要ることは、当然の前提ですから、それを十分に承知した上で進めていきましょう。



「基礎部」とは「習慣づくり」によって成り立つ部分のことです。それは、次の3つの面からとらえることができます。

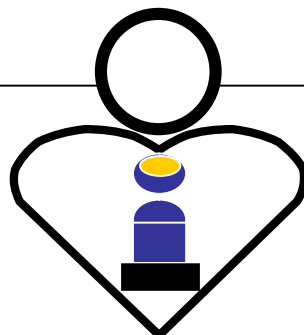
- 1 ● 精神的姿勢を確立する。
- 2 ● 思考方法を整備する。
- 3 ● 実際知識を拡大する。

そして、これらをバランスよく三位一体で身に付けていくことが大事です。

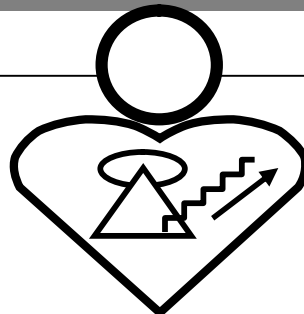
## 5-1 ■精神的姿勢の確立・3項目

脳力開発入門  
P66

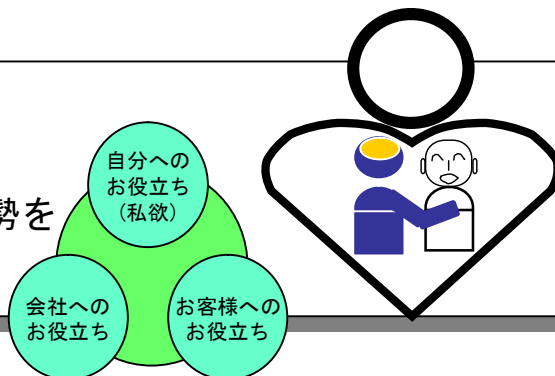
●第1項  
自分で  
主体的にやる姿勢を  
つくろう



●第2項  
いつも  
進歩発展をめざす姿勢を  
つくろう



●第3項  
他人の  
利益をはかる姿勢を  
つくろう



ここについては、取り立てて説明は要りませんね。

## 5-2 ■ 人頼りの姿勢の特徴

### 【 「人頼りの姿勢」の特長】

- 必ず他人のせいにする。
- 相手をバカにする。
- 相手の悪口を言う。
- 相手の短所ばかりみる。
- 結局、他人に流され、支配されていく。
- 不平・不満・愚痴をこぼす。
- 自嘲的になる。
- 自暴自棄になる。
- 「してくれる」のを待っている。
- 「くれない病」にかかっている。
- 怠惰・怠慢、時間を守らない。
- ダラダラ、タラタラ、ノラリクラリ
- グダグダ、ウダウダ
- 相手次第、他人次第

「脳力開発」では、何でも自分でやらないことには始まりません。脳力開発そのものを進めるためには「自分のことは自分でやろうとする姿勢」が絶対的な土台です。

その上で、「人頼りの姿勢」の人についてよく観察してみることは大変重要です。「人の振りみてわが身を正す」「反面教師」として多いに人に学びましょう。

## 5-3 ■ 自分頼りの姿勢の特徴

脳力開発入門  
P66

### 【 「自分頼り姿勢」 の特長】

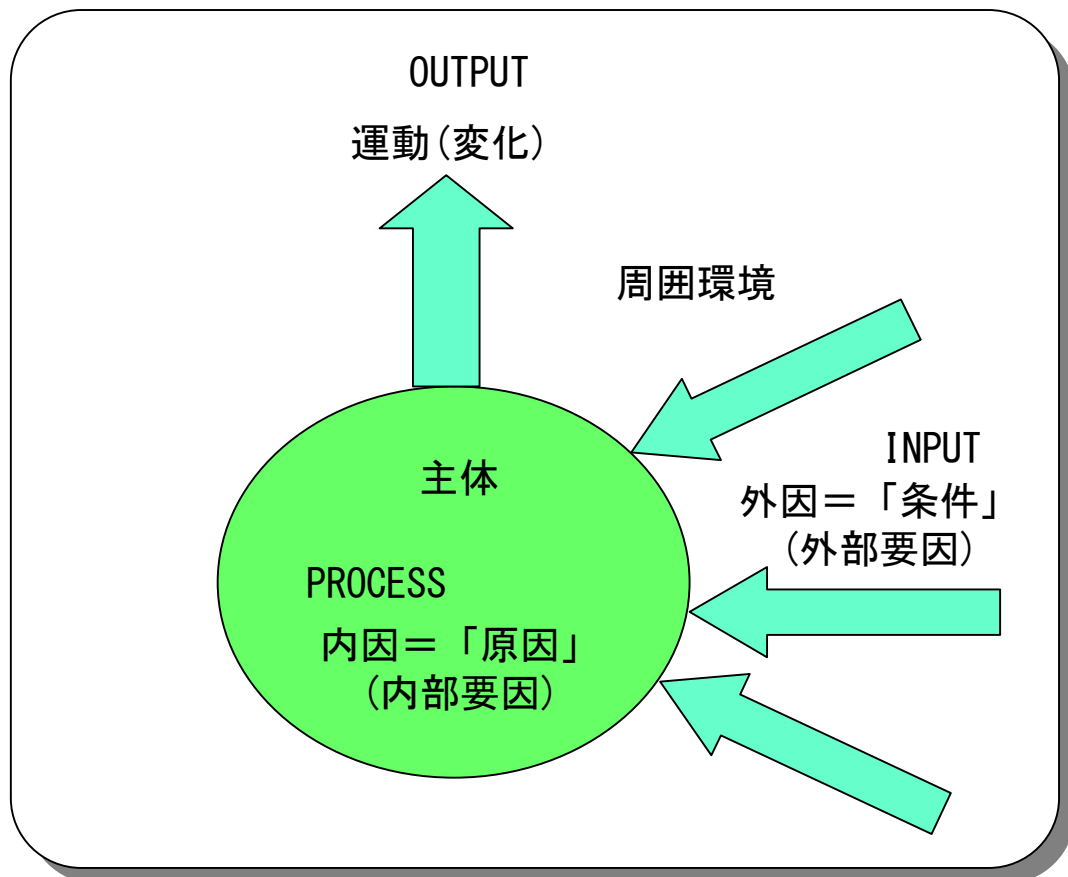
(「自分でやる姿勢」)

- 必ず自分のせいにする。
- 相手を尊重にする。
- 相手の長所をみる。
- 結局、自分の思い通りになる。
- 自らを叱咤激励する。
- 絶えず反省する。
- 自分を大切にする。
- 自ら行動を起こしていく。
- いつも人にしてあげる。
- 自らの努力を中心に考える。
- 勤勉、時間を守る。
- シャキシヤキ、カチカチ、キビキビ
- 自分次第

「自主自律・自己責任の原則」。これはこれからの時代の最も重要な原則です。自らが人生の主人となり、自ら律していく(セルフコントロールと同じこと)。そして、すべては自由と対になっている責任において、自らの人生を切り拓いていくということです。「自問自答・自学自習・自主自律」そして、「自己責任の原則」よく覚えておくこと!

## 5-4 ■ 「原因」と「条件」

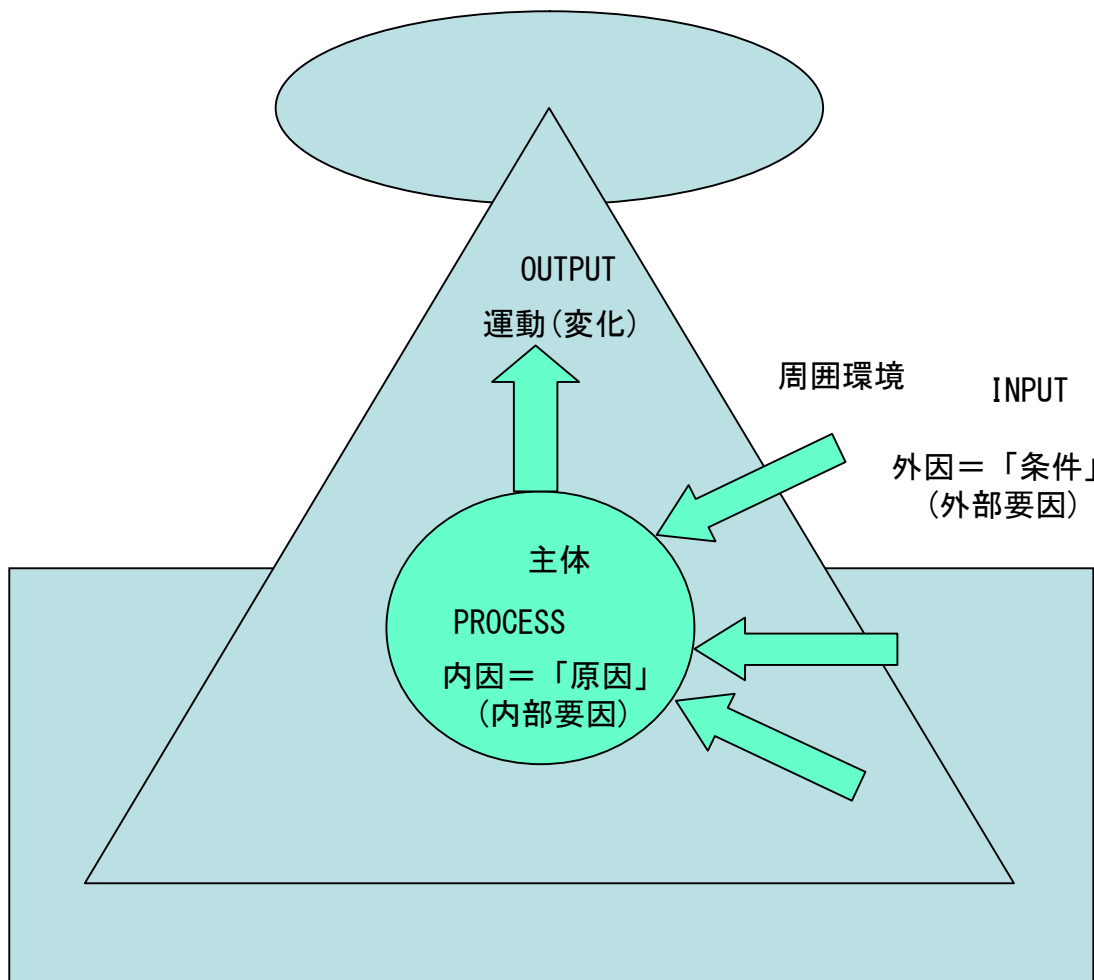
脳力開発入門  
P72



主体と対象。主体と環境。内因(内部要因)と外因(外部要因)。  
このように2つに分けて考えると大変クリアかつシンプルです。そして、すべては主体が内因として働いて、動いていくのです。周囲の環境に支配されたり、それに影響されて流されていくというのではありません。周囲の環境や外因はすべて1つの刺激、キッカケとして作用するものなのです。

## 5-5 ■ 条件をつくるのが仕事

脳力開発入門  
P72

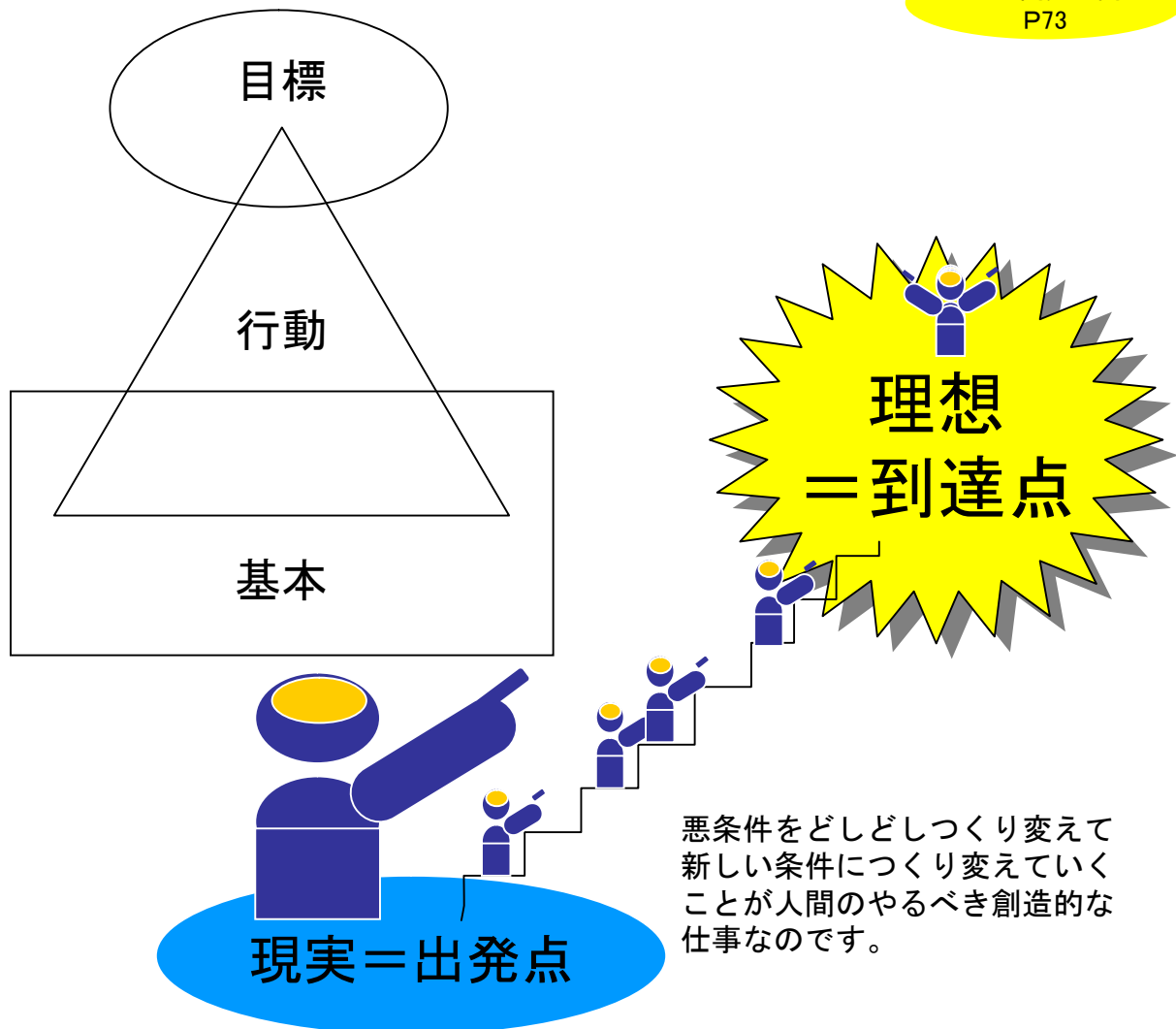


本当の意味の仕事とは、その「条件」を作り上げ、整備していくところにこそあります。原因である主体者が「すでに在る条件」を使って「まだ足りない条件」を新たに作り上げていく。

これこそが仕事の本質であり、またそれが「生きる」ということなのです。あくまでも、「条件」は使うものであり、つくるものであるということです。

## 5-6 ■理想と現実。出発点と到達点。

脳力開発入門  
P73



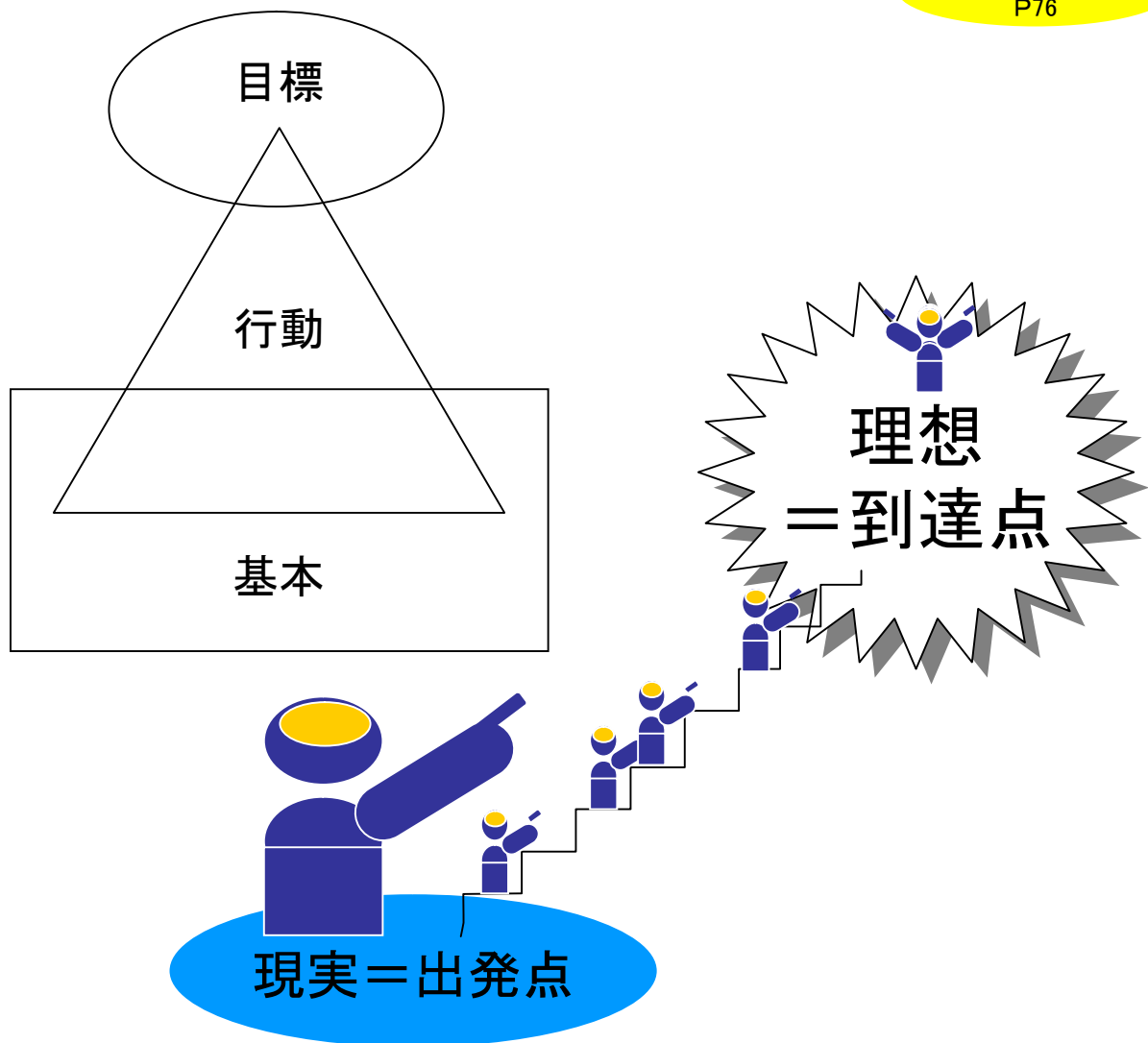
「理想」と「現実」はかけ離れているのが当たり前で、かけ離れているからこそ、理想と現実と言えるのです。それゆえ、それを嘆いたりするのは、おかしい話です。

現実というのは「出発点」であり、理想は「到達点」です。「出発点」から「到達点」に向かって実際に近づいて行く活動こそ、人間の人生の内容であり、意義なのです。



## 5-7 ■ 自分こそが推進のリーダーとして

脳力開発入門  
P76

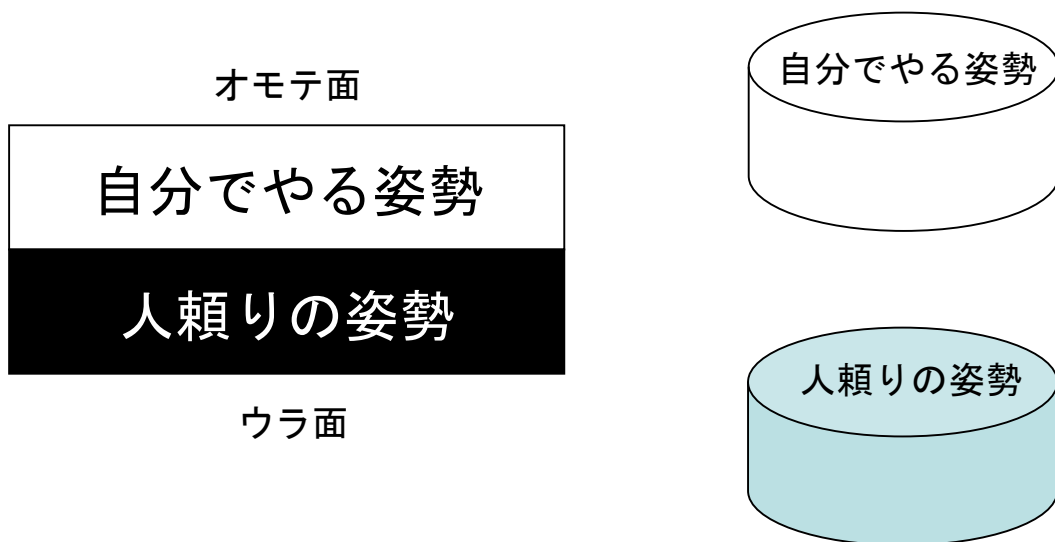


少し冷静に根本を考えてみれば、組織における今の自分のポジションも、周囲の具合もすべて「現時点での条件」にすぎないことがわかります。

上役だろうと社長だろうと、主体者である自分が使う「条件」の一部にすぎません。また、単純に思いどおりに運びはしない状況だからこそ脳力を使って、なるべく有利に活用し、望む方向に前進させていくのです。

## 5-8 ■ すべては選択の問題

脳力開発入門  
P77

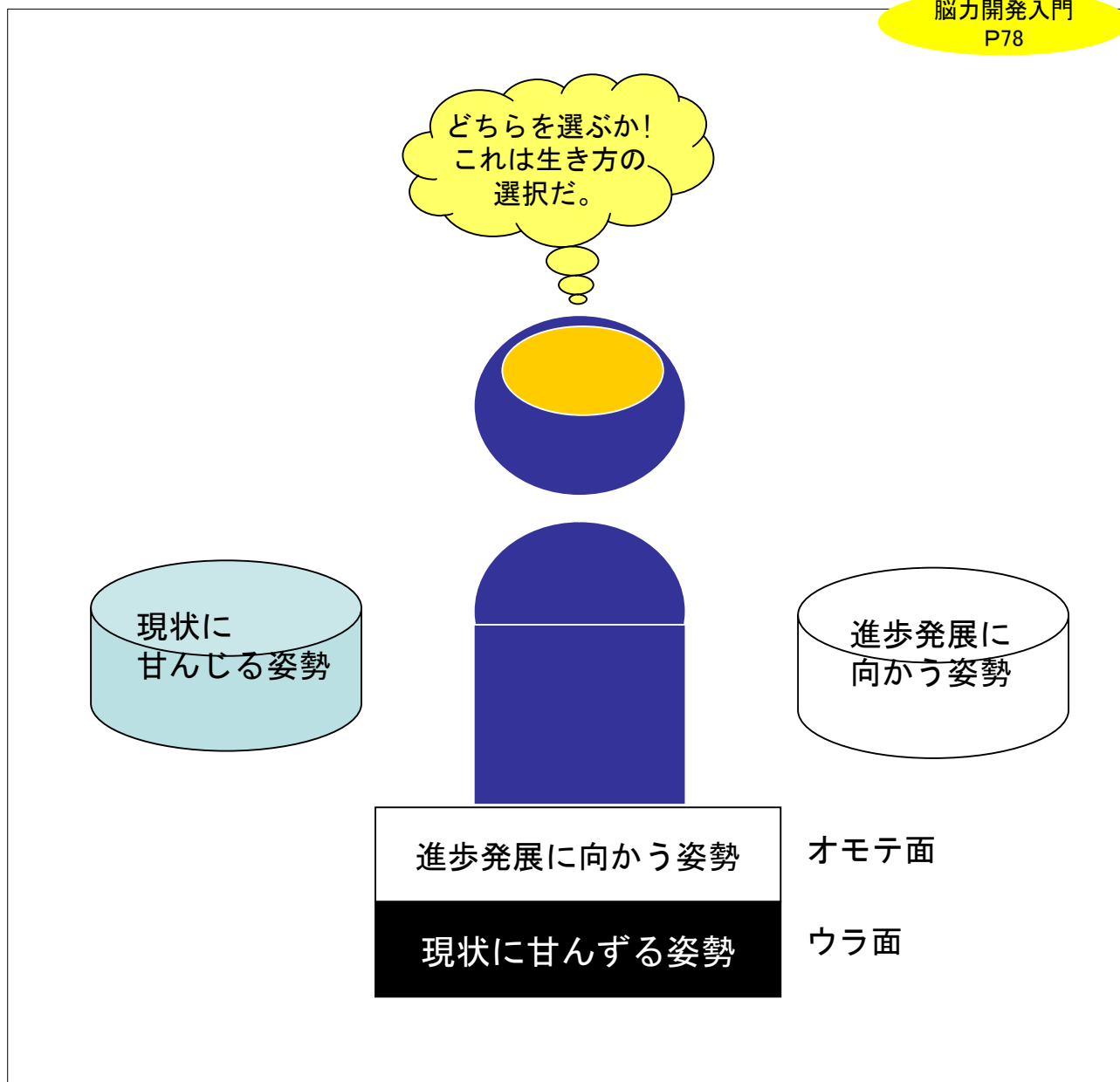


「自分でやる姿勢」と「人頼りの姿勢」は互いに裏表の関係にあります。つまり、自分の人生という全体コースの中では基本土台のあり方として双方は両立しないのです。

ということは、これは自分自身の選択の問題になるということです。

## 5-9 ■ すべては生き方・進め方の選択

脳力開発入門  
P78

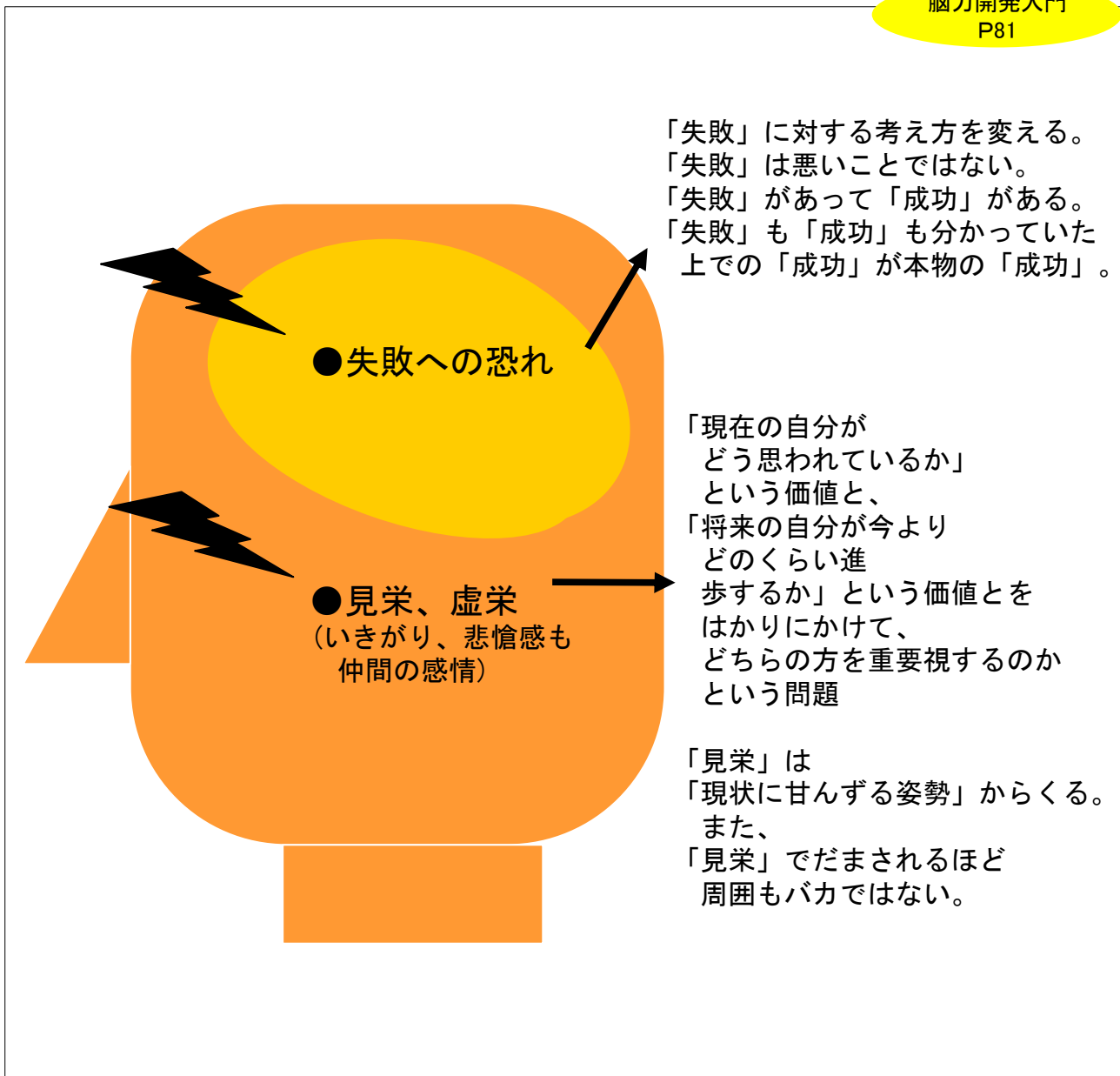


つまり、通常は、進歩発展に向かおうとしながら、現状に甘んじる姿勢をとることはできませんし、前に進もうとしながら後ろに進もうとすることはできません。

すべては生き方の選択。進み方の選択だということになってきます。

## 5-10 ■ 心の中の2つのブレーキ

脳力開発入門  
P81



私たちの心の中には、2つのブレーキがあると言われています。それは、「失敗への恐れ」と「見栄・虚栄」の2つです。

ですから、この2つに対して考え方を改めることが出発点となります。「失敗は悪いものではないし、恥ずかしいものでもない」、「見栄や虚栄は簡単に見透かされてしまうもので、却って評価を落としてしまうものだ」というように、考え方を改めることです。

## 5-11 ■ 逃げ出したい時ほど

脳力開発入門  
P83



感性論哲学においても、「現実から逃げない、問題から逃げない」ということが重要視されています。逃げ出してしまいたい時ほど、自分の信念や決断を思い出して、決して逃げないことです。正面から、正攻法で、誠意を尽くして対応していくしかないではありませんか。くれぐれも「逃げるなよ」。

## 5-12 ■ イメージや言葉の管理も大事

脳力開発入門  
P87

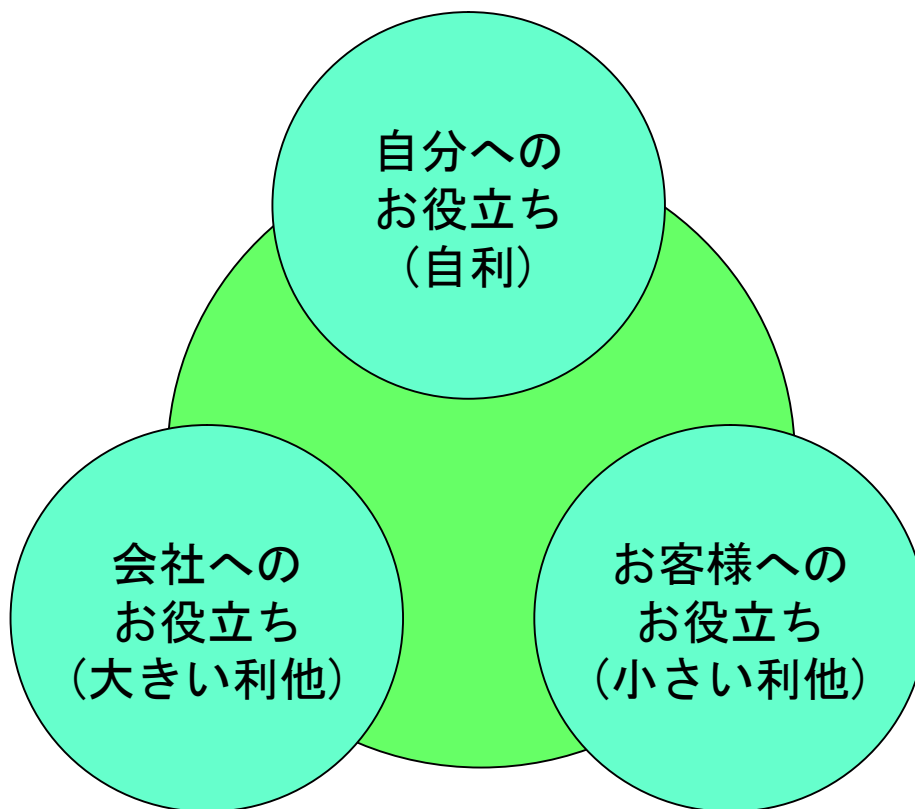


私たちは、まず最初にイメージを浮かべて、想うものです。  
そして、それを表現する時に言葉や文字にして、話しをしたり、文書  
やレポートにまとめたりするのです。

ですから、いつもよいイメージ、うまくやるイメージを浮かべるととも  
に、前向きな言葉、積極的な言葉、明るく元気な言葉を意識して使う  
ことが大事です。

## 5-13 ■ 他人の利益もはかる姿勢

脳力開発入門  
P89

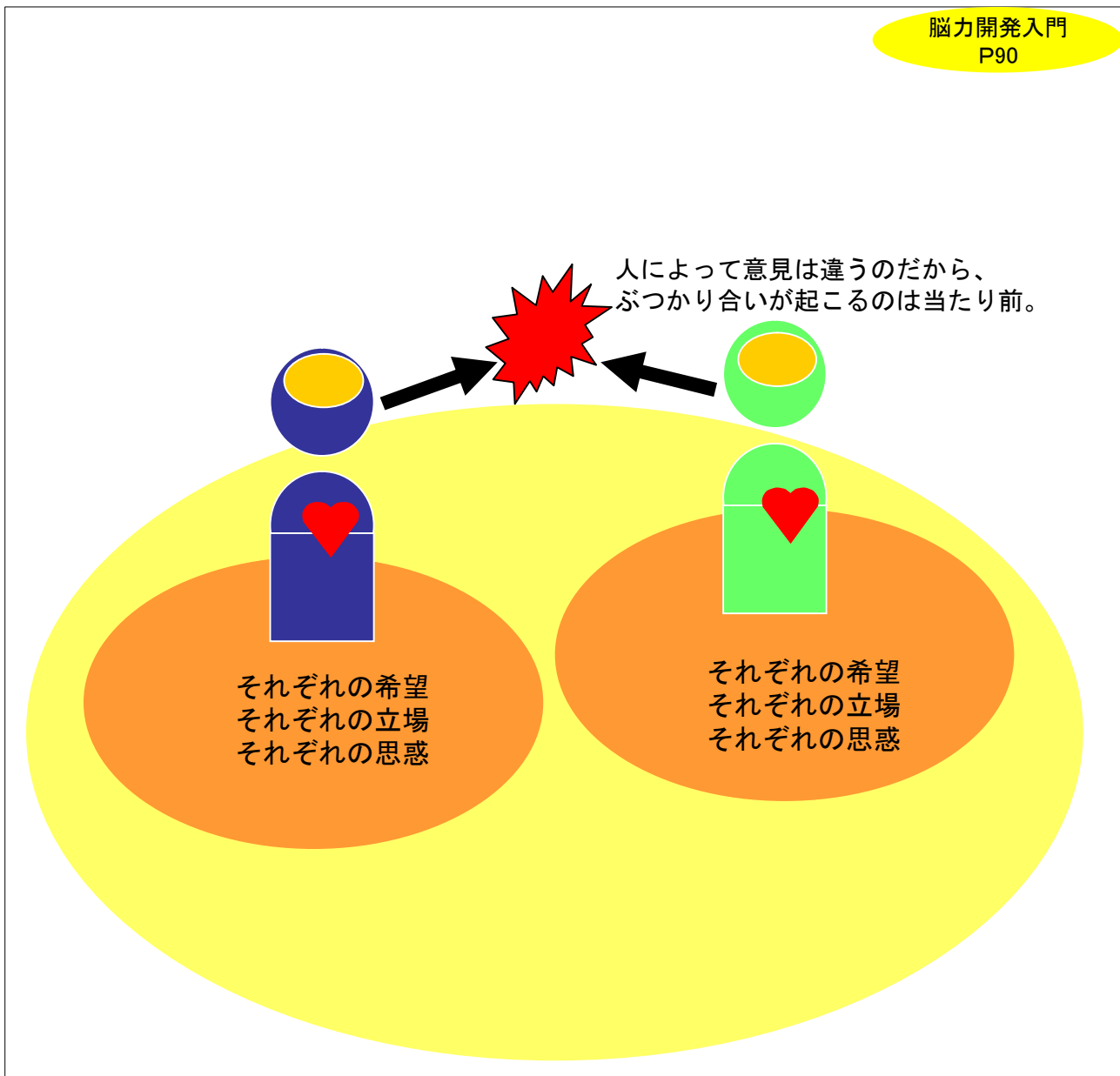


「他人の利益もはかる姿勢をつくろう」と脳力開発では言っています。感性論哲学では、「お役立ち」という表現をしています。大きく分けて3つ、詳細にわけると4つになります。

3つとは、上図にある通りで、4つとは「お客様の満足」「取引先関係者の満足」「株主の満足」「社員の満足」です。仏教でも「自利利他」という言葉があります。

## 5-14 ■ 「自分もよし・他人もよし」か？

脳力開発入門  
P90



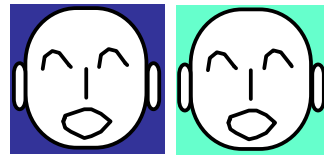
私たち人間は不完全ですから、自分も他人も欠点・短所、物欲・我欲、偏見だらけです。そういう人間がつくっている社会や会社や商品やサービスも、完全なものは1つもありません。

一方、いい点・長所もたくさんあります。ですから、それぞれのいい点・長所で補い合いながらやっていきたいものです。長所を伸ばせば、短所は味に変わります。その上での改善や進歩発展成長、進化なのです。



## 5-15 ■ 原則以外はなるべくゆずれ

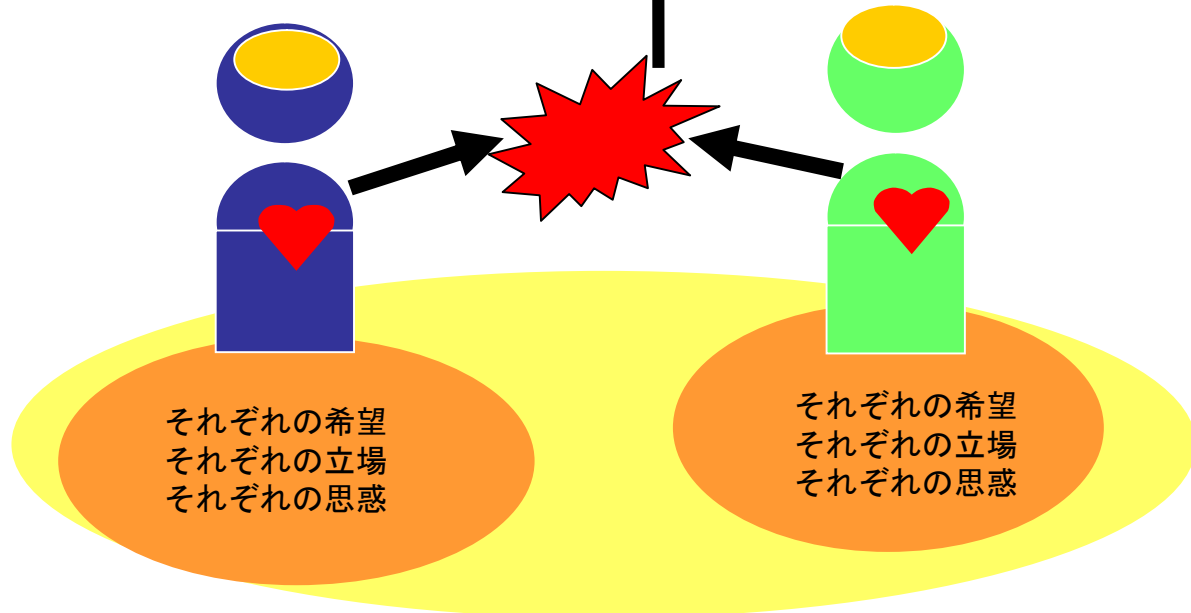
脳力開発入門  
P93



希望を2種類に分けて整理する考え方を採る。

- 「容易にゆずらない」強固な希望とルール  
（「原則」の範囲とする。自分の根本の  
生き方・生きがいに関するものだけ）
- 「ゆずってよろしい」希望とルール  
（「非原則」原則の範囲外）

ここで大切なことは「戦う相手」は  
人や組織の中の「ある部分要素」で  
あって、決して人そのものではない  
ということです。この点を間違えると  
社会性や平和性を失い、陰惨な結果  
を生むこととなります。

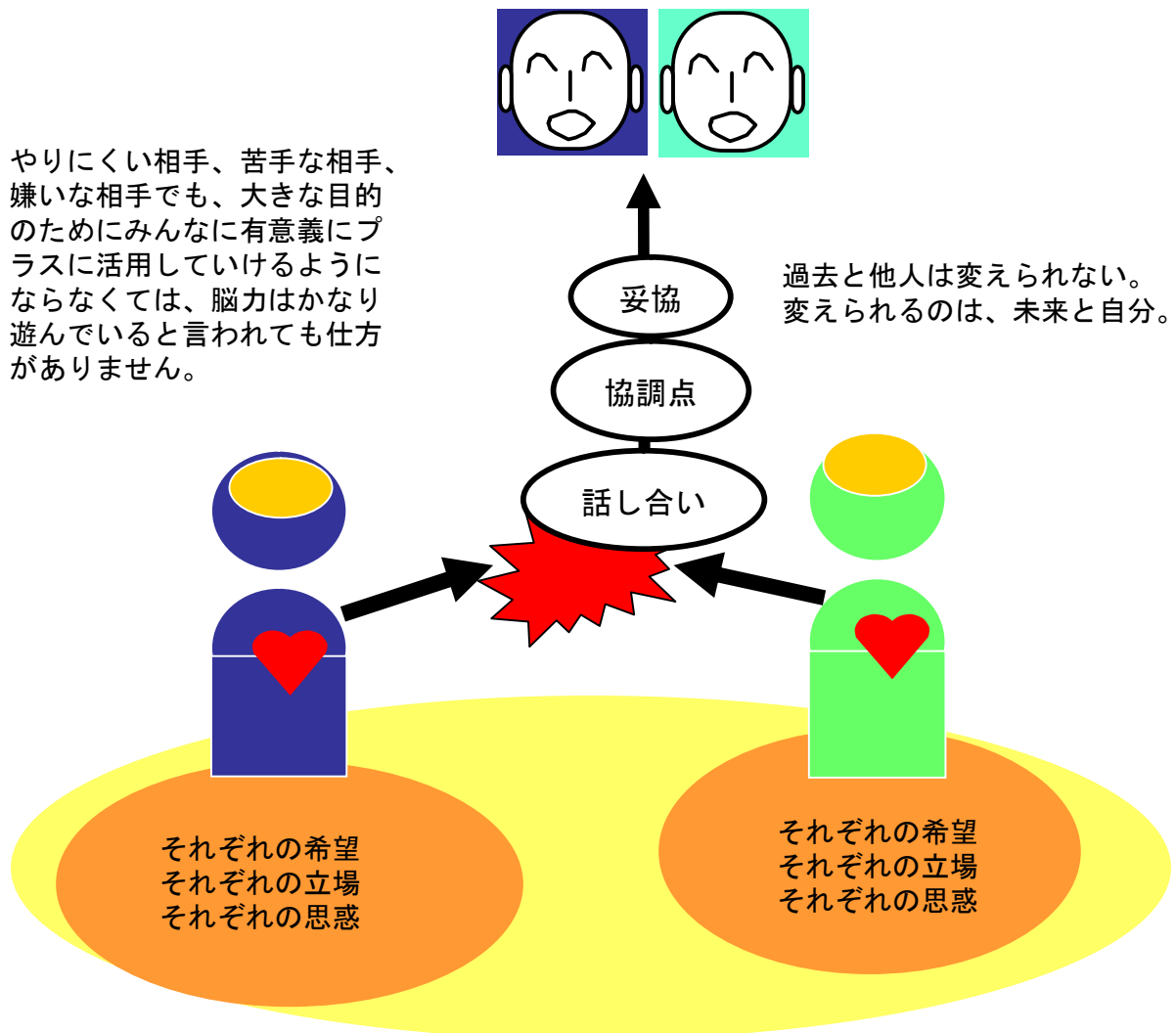


故城野宏織先生は、戦争体験者であり、捕虜生活も長く、人生の  
極限状況の中で生き方を磨き上げてきています。まさに修羅場をく  
ぐってきたところに構築された、真実に裏打ちされているのが「脳力開  
発」プログラムであることをつけ加えさせていただきます。

## 5-16 ■ 降伏と妥協は違う

脳力開発入門  
P94

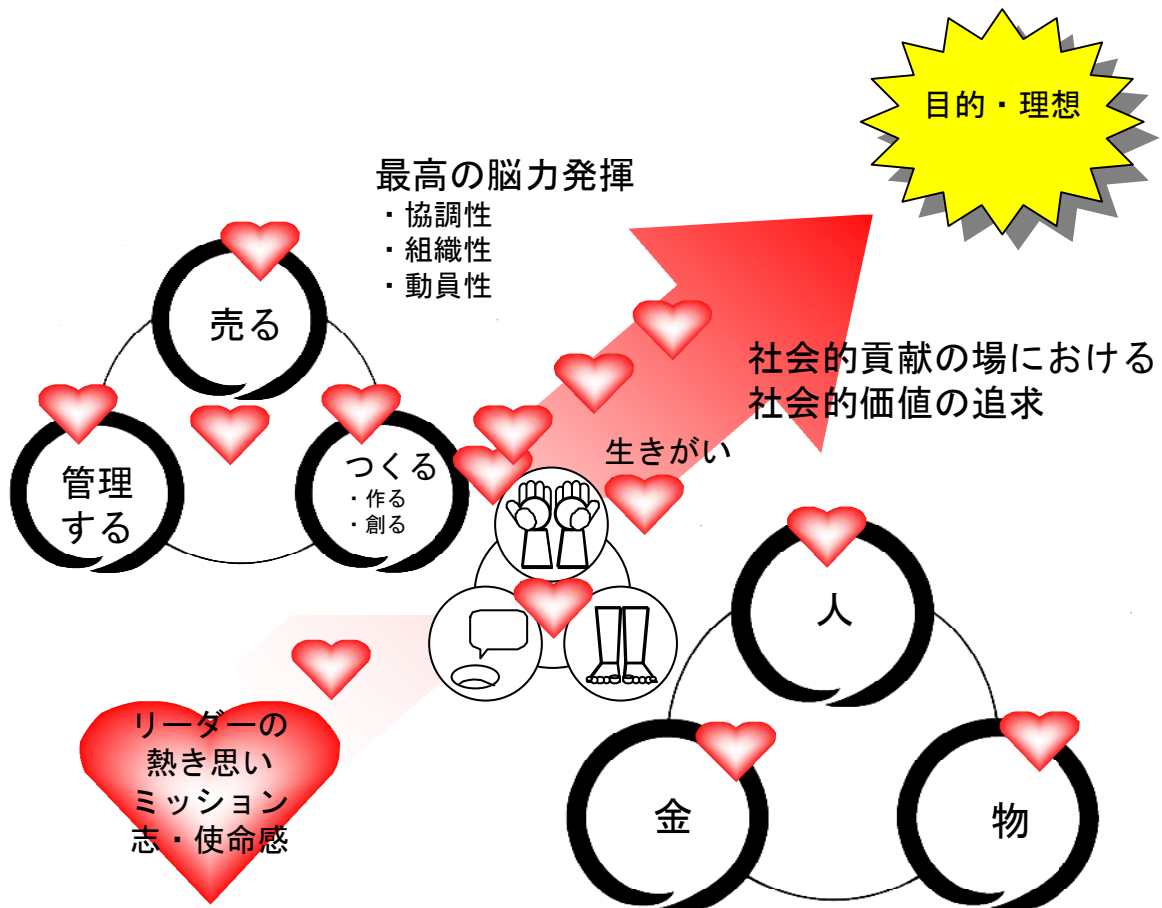
◆降伏と妥協は異なる。誰でも活用するのが脳力開発



「脳力開発」では「妥協」という表現をしていますが、これを「納得した上での行動」ととらえてもいいのではないのでしょうか。上図の中に、互助互敬とか、話し合いとかの心を付け加えるならば、まさに感性論哲学における「納得の論理」「発展的解消の論理」となってきます。よりよくなるために、大同団結できる心こそ感性からくるものでしょう。

## 5-17 ■ 組織力こそ、脳力の結晶

脳力開発入門  
P96

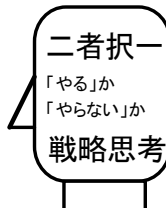


「脳力開発」では、「最も高い水準の脳力とは、『周囲からの利害打算抜きの援助や協力を、どれだけ結集できるか』という点に示されてくると言ってよいのです。…これ以上に強いものはなく、これにかなうものはありません。まさしく、最高、最大の脳力であり、切り札であると言えます」(P184)と記されています。

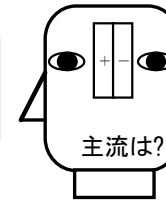
つまり、組織力であり、チームパワーの大元は脳力であり、感性だということです。

# 6-1 ■ 思考方法の整備

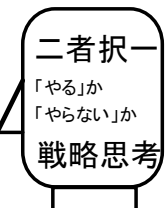
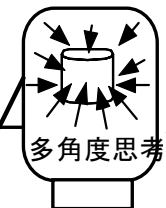
●第1項  
常に中心点を明らかにし、  
中心・骨組みで考える  
習慣をつくらう



●第2項  
常に両面とも考え、  
どちらが主流かも考える  
習慣をつくらう



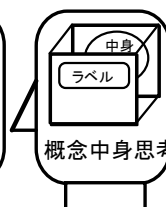
●第3項  
立場・観点を整理し、  
多角度から考える  
習慣をつくらう



●第4項  
確定要素から出発して  
考える  
習慣をつくらう



●第5項  
行動のつながりで、  
具体的に考える  
習慣をつくらう



「脳力開発」では、思考方法の整備について5つの項目を掲げています。それぞれについて、私なりに思考方法名を考えて図式化してみました。

これによって、より思考方法に対する理解や活用が促進されればと思うものです。

## 6-2 ■常に中心点を明らかにし、 中心・骨組みで考える習慣をつくろう

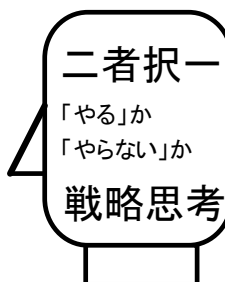
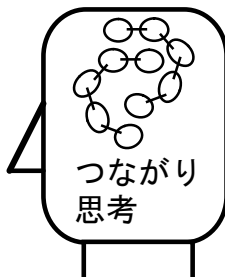
脳力開発入門  
P100-116



「つかむ作業(前半)」と「計画する作業(後半)」の応用で  
「つかむ段階」で「中心点をつかみ出す」  
「計画する段階」で「中心点を決める(確立する)となります。



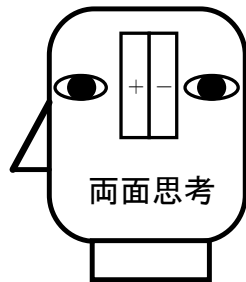
ひとまとまりの全体の中心点を浮き彫りにするための4段階  
1 ●その全体をいくつかの主なる部分やブロックに分ける。  
2 ●各部分、各ブロックにはそれぞれまた中心部がありますから、それを取り出します。  
3 ●その中心部どうしの中の相互関係をきちっとつかみます。立体的な関係・骨組をつかむことが好ましい。  
4 ●それらのつながりの中で一番の中心部はどこかを明らかにしてみます。



中心部を明らかにするとともに、目的・目標を決め、そこから導き出せる具体的な方法を考え、実行に移していきます。これが明確でないと、人間の頭は本格的に、効果的に動かないようになっているのです。

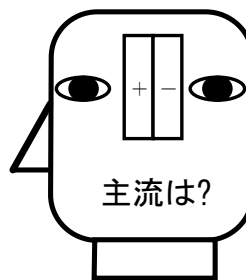
## 6-3 ■常に両面とも考え、どちらが主流 かも考える習慣をつくろう

脳力開発入門  
P110



「どんなものでも両面から成る」というのが構造上の法則です。感性論哲学では、「対存在の原理」と言っています。

それゆえ、物事を見る場合、両面思考でとらえるということが大事になってきます。どちらが良いとか悪いという問題ではなく両面とも事実だということです。



その上で、どちらが主流かを判断していくことです。通常は「目立たない方の部分」こそが主流面になります。

「目立つ方の部分」に目が行きやすいのですが、それらは、主流ではないゆえに、目立つということを頭に入れておいて下さい。

## 6-4 ■ 立場・観点を整理し、多角度から考える習慣をつくろう

脳力開発入門  
P117



立場というのは、「複数の要素の間の相互関係」を整理して考えるというところに大切な意義があります。

立場という用語の具体的な中身は、「希望(利益)」です。

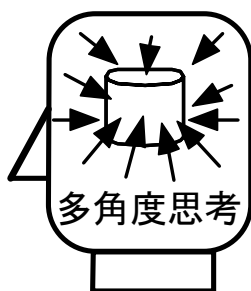
立場というのは、必ず希望を持っている。

- ・ 立場によって主張、意見が異なる。
- ・ 立場によって評価が異なる。
- ・ 立場によって進行方向とルールが異なる。
- ・ 立場と立場と間のぶつかりあいを「衝突」と言う。

2つの立場のぶつかりあいの中で最も基本的なのは

「現状を変えようとする立場」と

「現状を変えまいとする立場」との間の衝突です。

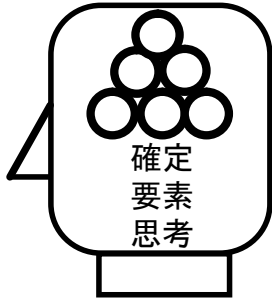


「何を擁護し、何をたたこうとしているのか」という具体的な希望と行動の内容(方向)がひとつの立場を明確に示します。

立場の整理の重要性。立場の点検。そのためにも「多角度思考」でみていくことが必要です。

## 6-5 ■ 確定要素から出発して考える 習慣をつくらう

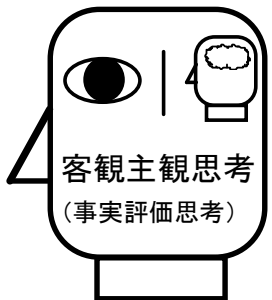
脳力開発入門  
P124



情報という切り口で  
考えるとわかりやすいでしょう。  
情報には2種類あります。

それは「確定情報」と「不確定情報」です。  
「確定情報」に基づいて行動しないと  
失敗しやすいものです。

それゆえ、「不確定情報」については  
もっと調べる・確認することを  
怠ってはなりません。

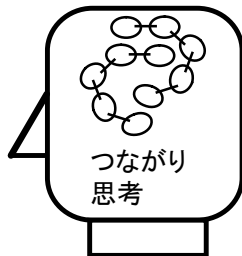


知ったかぶりもやめましょう。  
「不確定情報」とは、  
「憶測」「気分」「身勝手な想定や推論」、  
「印象」、「仮定」「仮説」、「空想」、  
「思い込み」「決め込み」、「勘違い」などです。



## 6-6 ■ 行動のつながりで、具体的に考える習慣をつくらう

脳力開発入門  
P132



脳力が具体的に真に使われるのは、言葉や概念の中身の方のつながりで考えられた時です。その中身とは具体的な行動が主軸になります。



言葉や概念というものは、本来、中身を表わすための表示であり、いわば信号にすぎません。索引や表札のようなもので中身そのものではないのです。だから言葉や概念というものは、具体的な中身をちゃんと詰め込んでおかないと空回りしてしまいます。

また、言葉や概念の力を万能なものとして重視しすぎますとただ言葉に流されたり、抽象的な話だけで終わってしまいます。

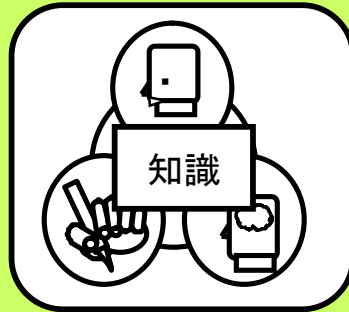
とは言え、概念や抽象化された言葉が悪いとか、意味がないと言っている訳ではありません。言葉や概念なしには物事の整理や分析はできないし、簡潔な意志伝達もできなくなってしまいます。

行動の内容として誰もが分かるように、誰でも解釈がほぼ共通になるように明らかにし、その内容のつながりで考えてこそ、初めて言葉や概念は本来の有効な働きをし、その存在価値を発揮できることになります。

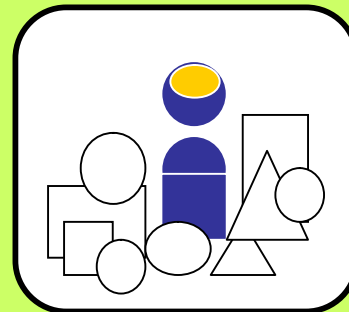
## 7-1 ■ 実際知識の拡大3項目1

脳力開発入門  
P140

● 第1項  
知識は  
すぐに使う  
習慣をつくろう



● 第2項  
きるだけ  
たくさんの物事に  
首を突っ込む  
習慣をつくろう

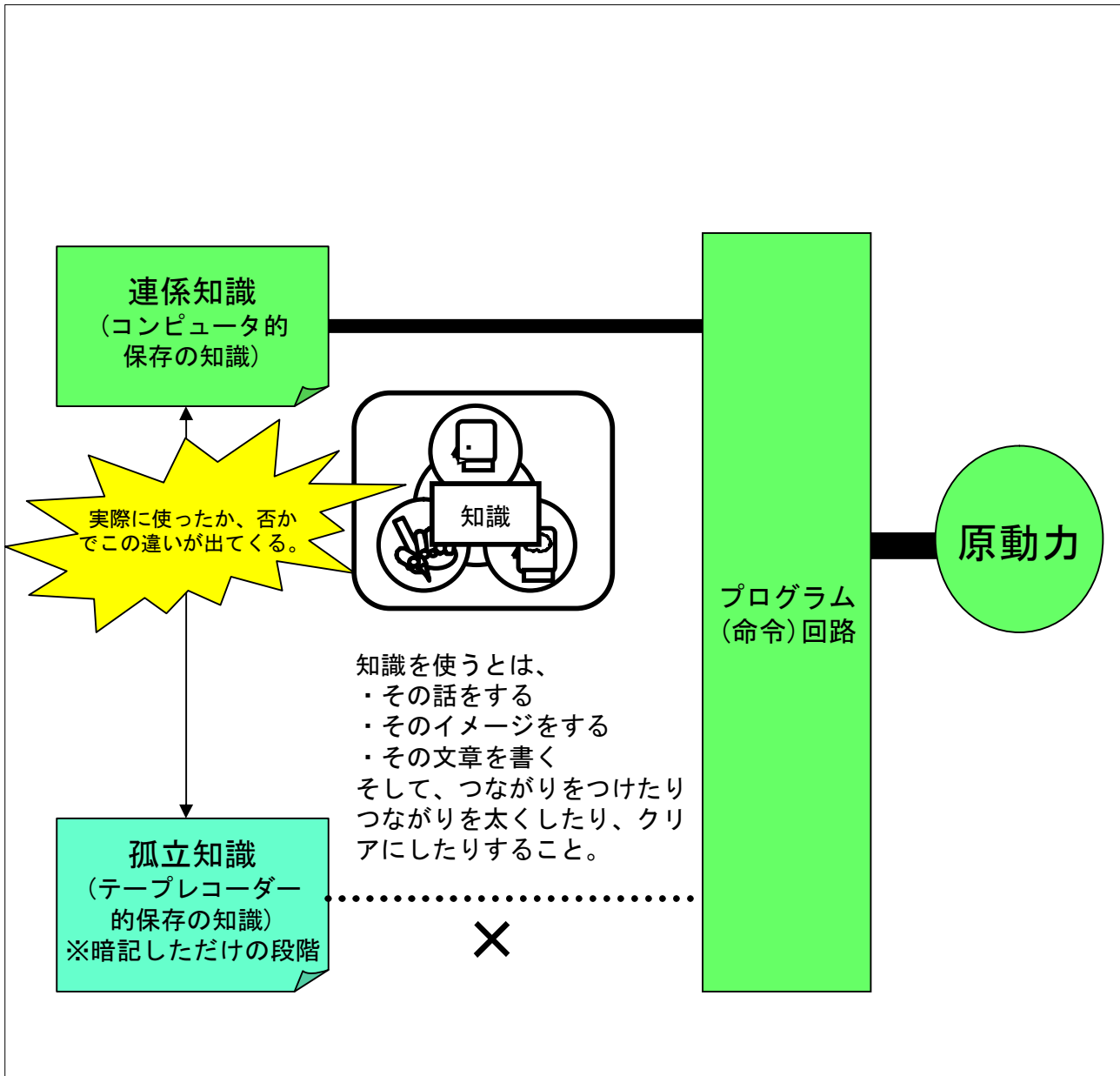


● 第3項  
できるだけ  
たくさんの人に  
接触する  
習慣をつくろう



知識が本当に使われるためには、その知識に対する思いが先行してなければなりません。無理に覚えた知識や、詰め込んだ知識では、試験の点数取りにはいいかもしれませんが、実践における企画やアイデア出しや知恵には結びついてきません。その意味でも知識に先行して感性や思いが働いていることがポイントになります。

## 7-2 ■ 実際知識の拡大3項目2



そして、知識を使うというステップに入っていきますが、本当に求めていた知識ならば、すぐにそれに関する話をしたり、さらに相談や質問をしたりすることで、さらにその知識に深みや広がりが出てきます。

このようにして、知識が感性と理性を行ったり来たり、サイクルしたり、スパイラルアップしていく中で、いいアイデアや知恵というものが出てくるのです。

## 7-3 ■ 実際知識の拡大3項目3

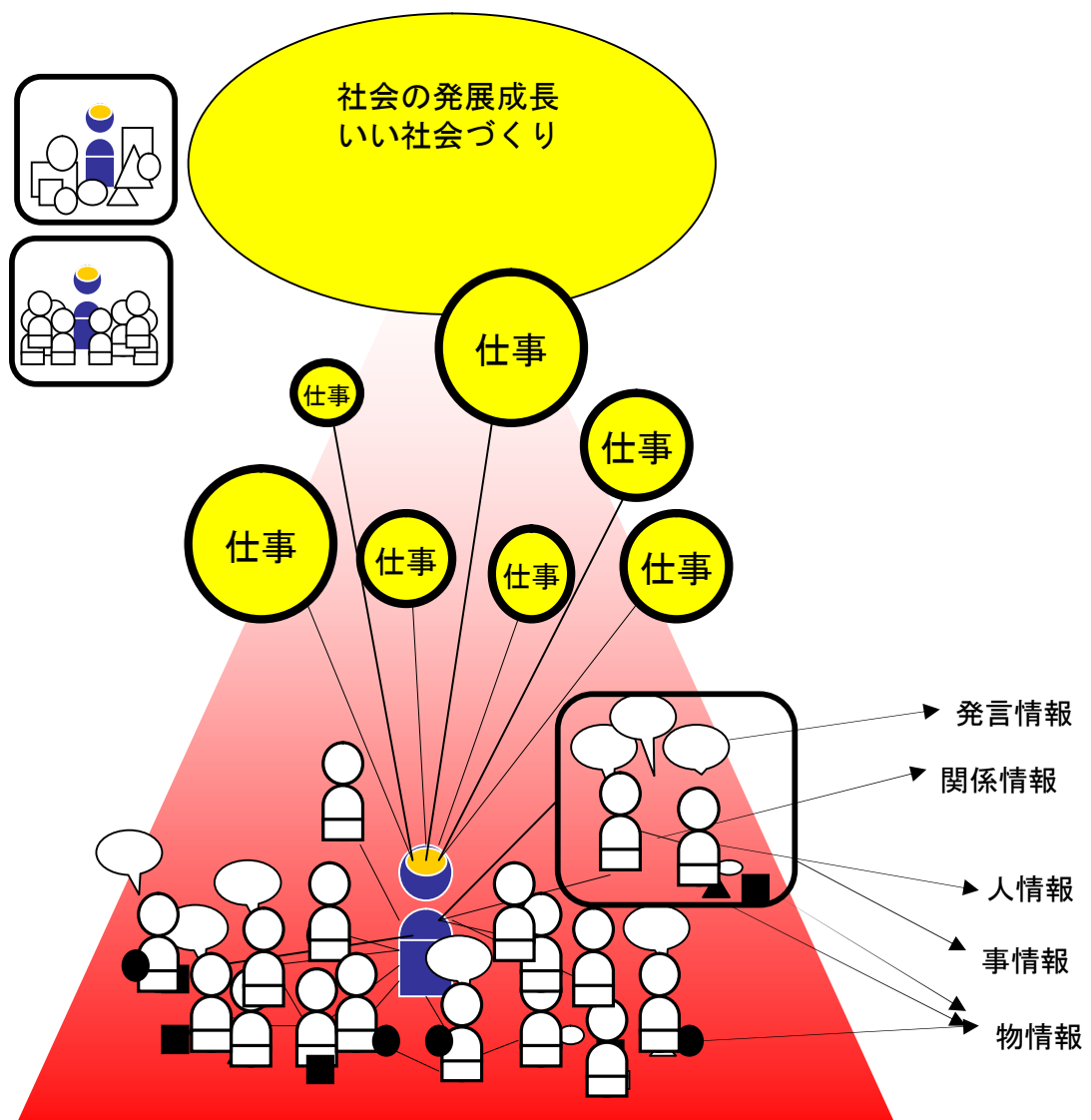
脳力開発入門  
P150

「知識体系」の基盤になるのは、直接行動(体験)によって得た体験知識。

人というのは、いろいろな体験を備えている「直接材料の源泉」。

情報のネットワークとは、まさしく人のネットワークのこと。

仕事というのは、  
人と人との関係をいかに作り上げるかということにかかっている。



# 資料

## 脳力開発入門 基礎編の使い方

# 脳力開発入門・基礎編の使い方

- ①まず最初に、とにかく一通り目を通して下さい。  
そして、どんな内容が書いてあったかくらいが記憶に残れば十分です。
- ②とにかく、「続けていただく」ことです。  
私が何万冊も読んできた中でベスト10に入る、本当にいい本です。  
そのためには、事あるごとに「はじめに」を読むといいでしょう。
- ③会議や勉強会や朝礼などでは、必ず「脳力開発タイム」を3～5分間  
くらいは設けて継続して下さい。
  - ・適当に開いたページの一節を読む。  
気が乗っていたなら、続けて次の節を読んでもいい。  
そして、簡単な感想を添えるようにする。
  - ・慣れてきたら、自分に起きた出来事、問題やトラブルなどの時に、脳力開発をいかに活用したかを発表していただけるとよいと思います。  
「先日、こんなことがありました。・・・その際に、脳力開発をパラパラめくり、○ページの○○○の項目が目飛び込んできました。そして、それを読んでみると・・・。・・・ということで、脳力開発が役に立ちました」というような具合です。
  - ・さらに慣れてきたら、何ヶ所か組み合わせて、脳力開発の活用のお話をしていただければと思います。ここにくるまでには、1年以上かかると思いますので、気長に、気楽に進めて下さい。
- ④大事なことは、会議や勉強会から会議や勉強会の間に、脳力開発をいかに活用するかということです。つまり、現場で実践的に、自分自身のために使うということです。勉強会や会議や朝礼の時の発表のためにだけ使っているのでは不十分です。

つまり、いつも持ち歩いていて、何かにつけ、開いて、見る、読むということを習慣づけてほしいということです。
- ⑤また、たまに「目次」や「補足」「付録」や最終ページの図表も見てみるといいでしょう。
- ⑥さらに、余裕があれば、脳力開発と感性論哲学とは大変相性がいいので、どこが似ているか、どこが共通しているかということも意識してみてください。

# 脳力開発入門の活用・その①

## 「感性論哲学的な内容の箇所をチェックする」

まず、参照ページを開いてみて下さい。そして、指示してある見出しの箇所をお読み下さい。その上で、参考にさせていただければと思います。

□5ページ■140億個の脳細胞 ・素材や素質といった意味では万人が平等

□9ページ■心の所在 ・その意味では全身で心を形成していると言えます。

□14, 15ページ■「頭のよしあし」と「脳力」

・アタマ、ココロ、ハラなどは皆、別の次元のものとして認識されていると言える訳です。…つまり、ひとつのものの別な面というとならえ方が重要なのです。

・「脳力」というのはそのようにすべてを包括した内容をさしているのです。

※この「脳力」を「感性論哲学」で言う「感性」に置き換えてみて下さい。  
そんなに異和感のないことに気づきませんか？

□27ページ■回路を変えていくには

・具体的に気づいて、それを意識すること  
希望し、さらに「変えるぞ」と決心すること

□28ページ■どうしても「ガイド」が要る

※この「ガイド」を、感性論哲学の基本テキスト類と考えることができます。

□57-58ページ■気分と脳力

※この「気分」という言葉を「感性」と置き換えても、あまりおかしくありません。

□97ページ■社会的価値の追求こそ

※この中の「本質的な生命感情」という言葉を「感性」と置き換えてもおかしくありません。

□98ページ■人間の生命感情

※この中の「自然な生命感情」は、まさに「感性」と言ってもいいでしょう。

□154ページ■基礎学(理論)体系について

※当脳力開発が、しっかりとした学問的体系を意識していることの確認ができます。

□183-184ページ <3> <4> <5> <6>

・悪条件とは、…。※感性論哲学・感性経営の5原則の3番目と比較してみてください。

・「社会的価値の追求」

・「大感情」、「最大の脳力」

・「真の思いやり、誠意、愛、慈悲といった高い境地」

## 脳力開発入門の活用・その②

### 「目標管理的な内容の箇所をチェックする」

- 27-28ページ ■回路を変えていくには
  - ・新しい実践が必ずいる ・具体的に気づいて、それを意識する ・希望し、決心する
- 43-45ページ ■脳細胞回路と「習慣」
  - ・脳力開発とはすなわち習慣づくりである
  - 集まってやることに意義
  - 人にわからせる実践・・・部門長やリーダーにとって大事
  - ・自分自身にとって利益になる ・この努力によって一番力がつきます
- 60-61ページ ■整理と「すっきり、はっきり」
  - ・原理的にやれないものは最初からやらない
  - 気分変動の因子をつかむ
  - ・その妨げの要素を明確に具体的に整理
  - ・冷静にさぐっていけば大抵はわかるものです・・・第1段階
  - 価値の整理をしない
  - ・取り出した因子や具体的材料に対してどう臨み、どう扱うのか、それが第2段階
- 64ページ ■新しい習慣をつくるという意識
  - ・ともかく、新しい習慣をつける、新しく癖をつけていく
  - 習慣づくりと目的意識の維持
  - ・毎日、ひとつでよいから、習慣づくりの基礎項目を目標だてて、1日中それを意識し実践する
  - ・毎日一項目
- 76ページ ■自分が推進のリーダー
  - ・単純に思い通りに運びはしない状況だからこそ脳力を使って・・・
  - ※180-181ページ参照
- 80-82ページ ■実際には一步一步
  - ・すぐできるところからすぐ始めること、易しそうなところから手をつけていくこと
  - 2つの内部ブレーキ
  - ・失敗への恐れ、自分に対する他人の評価へのこだわり、見栄、虚栄
  - 失敗は悪いことではない
- 101-102ページ ■目的・目標・方針
- 104-106ページ ■戦略と戦術の区別 ■計画する作業の中心部 ■戦略とは
- 108ページ ■戦略とは行動追求
- 120ページ ■立場と戦略・・・社長、部門長、社員の立場と戦略
- 127-128ページ ■確定的要素に基づかないと失敗する
- 142-143ページ ■つながりをつける
  - ・つながり関係をできるだけ具体的になるべく幅広く追いかけていく
  - 頭のなかで具体的に追いかけてみよ
  - ・まず自分の頭の中でどンドン行動してみる
  - 行動のつながりで
- 152ページ ■仕事とは人間関係づくり
  - ・仕事というのは簡単に言えば、人と人との関係をいかに作り上げるかということにかかっている
- 166-17ページ ■集团的展開におけるめやす



## 脳力開発入門の活用・その③ 「ISO的な内容の箇所をチェックする」

- 27-28ページ ■回路を変えていくには
  - ・新しい実践が必ずいる
  - ・具体的に気づいて、それを意識する
  - ・希望し、決心する
  - どうしても「ガイド」が要る・・・このガイドというのをISOマニュアルと置き換えて読む
  - ・時間がかかる
  - ・繰り返し、繰り返しの実践でこそ実現する
  
- 35-36ページ ■やり方の趣旨は
  - ・「指針」を十分に使うというところに・・・指針というのをISOマニュアルに置き換えて読む
  
- 38-41ページ ■「指針」とは・・・指針というのをISOマニュアルに置き換えて読む
  - 暗記した指針は使われない
  - 徹底して指針を使う
  - ポケット指針集
  - 指針集を開いて見る癖を
  
- 44ページ ■集まってやることに意義
  
- 46ページ ■忠実にやる人の勝ち
  
- 49-50ページ ■構成の3段階 ■動作の3段階 ■核動作
  - ※こういうシステマ的な見方ができると、大変わかりやすく進めることができます。
  
- 54ページ ■5つの実施タイプ・・・この考え方も応用すると便利です。
  
- 81-82ページ ■失敗は悪いことではない ■ミスなくして本当の把握はできぬ
  - ※ISOのキーワードとして、CS経営と改善、そして管理手法を挙げることができます。
  - 特に失敗やミスは改善の対象となるものですから、積極的に取り組んでいきたいものです。
  
- 101-102ページ ■目的・目標・方針
  
- 170ページ <8>
  - ・あくまでその形式に従ってハウコク連絡することを義務づける(強制する)というやり方を併用していくと多大な成果を生むことができます。
  
- 190-191ページ [4]点検と確認に関して
  - ・<2>点検と確認のやり方としては・・・
  - ・<3>「点検と確認」の併用が不可欠
  - ・<4>点検と確認の作業においては、次のような重大なルールを守る必要があります・・・

## 脳力開発入門の活用・その④

### 「CS経営的な内容の箇所をチェックする」

□27-28ページ■回路を変えていくには

- ・新しい実践が必ずいる
- ・具体的に気づいて、それを意識する
- ・希望し、決心する

※関連項目・・・190ページ

■どうしても「ガイド」が要る・・・このガイドというのをCSマニュアルと置き換えて読む

- ・時間がかかる
- ・繰り返し、繰り返しの実践でこそ実現する

※関連項目・・・46ページ■忠実にやる人の勝ち

※関連項目・・・64ページ■新しい習慣をつくるという意識

■習慣づくりと目的意識の維持

□76ページ■自分が推進のリーダー

- ・単純に思いどおりに運びはしない状況だからこそ脳力を使って・・・

※関連項目・・・181-182ページ■変革のための指針

□87-88ページ■使う言葉の管理が大切

■イメージも管理せよ

※関連項目・・・135-136ページ■抽象的な訓示は意味がない

■具体行動をたくさん出し合う

※関連項目・・・143-144ページ■行動のつながりで

※関連項目・・・147ページ■材料の土台の体験(小説・映画・テレビドラマのたとえ)

□89-98ページ■5章-3全部「他人の利益もはかる姿勢をつくろう」

(特に内部における社員間やライバル等に対して有効)

※関連項目・・・183-184ページ<4><5><6>

□118-120ページ■「立場と希望」

■「立場」も行動が前提

□150-152ページ■たくさんの物事とたくさんの人

■やってみれば案外と簡単

■情報源は「人」である

■仕事とは人間関係づくり

■タイトル名 「山本英夫の脳力開発入門」（ファイル版）

■画・文・編集・制作 株式会社エディックス出版事業部 責任者 山本英夫

■発行 2007年7月22日 初版発行

■定価 5000円（税込み）

■発行者 株式会社エディックス 出版事業部

〒435-0034 静岡県浜松市安松町89-9

eメール edics@edics.co.jp

TEL 053-465-2116 FAX 053-465-2117